

共 通 教 育

「学生による授業評価」ならびに
「教員のFD活動レポート」

報 告 書

平成19年度(後学期)



平成21年 3 月

宮 崎 大 学

平成 19 年度（後学期）
共通教育「学生による授業評価」ならびに
「教員の FD 活動レポート」報告書の刊行にあたって

本学の共通教育部には共通教育の点検・評価とそれに基づく共通教育の改善を審議・改善することを任務とする共通教育部自己点検・評価委員会が設けられています。本委員会は、具体的活動の一つとして毎学期末に「学生による授業評価アンケート」と「教員の FD 活動レポート」を実施して取りまとめ、報告書を刊行してきました。これまで作成した報告書は平成 16～18 年度の前・後学期、及び平成 19 年度の前学期分の計 7 冊です。本報告書はこれらに続くもので、通算すると 8 冊目となります。

本報告書の「学生による授業評価アンケート」や「教員の FD 活動レポート」における質問項目や取りまとめの方法はこれまでの報告書の場合とほぼ同じで、年次・学期間の動向の比較が可能で、本報告書においても各所で実行され、動向の分析に利用されています。

ところで、「学生による授業評価アンケート」の回収率及び「教員の FD 活動レポート」の提出率をみると、これまでは次第に向上し、授業担当教員の意識が高まっていることがわれました。しかしながら、今回（平成 19 年度後学期）の割合をみると、「学生による授業評価アンケート」の回収率は平成 19 年度前学期の 97%から今回は 90%に、また「教員の FD 活動レポート」の提出率は同 73%から 70%と、いずれも低下しています。

日々の教育・研究活動が多忙であるにせよ、上記アンケートやレポートはすべての教員が果たすべきことと受け止め、取り組んで頂きたいと切に願う次第です。

周知のように、共通教育は本学の学士教育において重要な地位を占めています。そして、本報告書及びこれまでの 7 冊の報告書は、宮崎大学の共通教育の現状の把握や今後の課題の検討のための基礎資料となる重要なものであり、多くの学生や教職員のご協力、ご努力のもとに作成されています。

このことをあらためて認識して頂き、授業担当教員だけでなく、できるだけ多くの教職員の方々に本報告書に目を通して頂き、共通教育に対する理解及びその充実・発展のために役立てて頂ければ幸いです。

最後に、今回の報告書のとりまとめが遅れたことに対し深くお詫び申し上げますとともに、ご多忙中にも関わらず、今回も「学生による授業評価アンケート」及び「教員の FD 活動レポート」にご協力頂いた授業担当教員各位、並びに学務部教務課、共通教育部等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

共通教育部自己点検・評価委員会

委員長 山本直之

目 次

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書等	1
第2章 学生による授業評価	5
【1】全科目の平均について	5
【1-1】全科目平均の動向	6
【2】科目群ごとの分析	8
【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較	8
【2-2】前年同学期との比較	10
【2-3】科目単位でみた分布	13
第3章 教員のFD活動レポート	24
【1】学生による評価と教員の自己評価の比較	24
【2】教員のFD活動の状況	27
第4章 科目ごとのデータ一覧	28
第5章 総括	37
資料1 平成19年度・共通教育FD研修会報告書	39
資料2 平成20年度FD研修会(H20.11.14)・発表資料	47
「共通教育部自己点検・評価委員会」委員名簿	56

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書等

平成19年度後学期の共通教育科目に関する「学生による授業評価」及び「教員のFD活動レポート」は次のように実施された。

実施時期	平成20年(2008年)1月8日(火)～1月25日(金)の授業期間中。
対象科目	すべての共通教育科目(197科目)。但し、集中講義を除く。
実施方法	実務は学務部教務課と教育研究・地域連携センター(武方壮一准教授)が担当し、各科目の登録学生数に応じた枚数の調査票をあらかじめ用意し各教員に配布した(但し、「情報科学入門」は、後述の通り試行的にWeb入力により実施した)。各教員は授業時間内に学生に調査票を配布して調査を実施し、ただちに回収した。その後、教育研究・地域連携センター(同上)が集計作業を行った。
回収率	89.8%(197科目中、177科目を回収した。)
返却	各教員には調査票の現物とともに「結果報告書」を返却した。
FD活動レポート	FD活動レポートは、前回同様に常勤教員は原則Web入力によった。非常勤教員に関しては従来通りに所定用紙を配布し、記入の後、学生用調査票とともに提出して貰った。その後、「学生による授業評価」アンケートと同様に教育研究・地域連携センター(武方壮一准教授)が集計作業を行った。 提出率は70.1%(197科目中、138科目分のFD活動レポートが提出された。)
報告	すべての科目の集計結果(生データ)は共通教育部自己点検・評価委員会に報告され、報告書は当該報告に基づき同委員会報告書作成WGが作成した。更に、報告書は同委員会に上程され、最終的に了承された。

※調査票・結果報告書・FD活動レポートの現物を次ページ以降に掲載した。なお、実際には、「科目コード」「授業科目」「担当教員」の〇〇の部分には各教員名及び授業名等のデータがあらかじめ記入されている。

「学生による授業評価」調査票(共通教育)

共通教育部自己点検・評価委員会

記入にあたっては、真剣に、かつ、率直な評価をしてください。この調査を教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ります。なお、この調査とあなたの成績とは一切関係ありません。

科目コード:

授業科目:

担当教員:

達成目標:

I. 質問項目:

A: 受講・勉学態度等に関して

- 1 私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。
- 2 私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
予習や復習/重要事項の書き留め/課題の提出/授業内・外での教師への質問(オフィスアワーの活用)、等
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B: 担当教員の教授技法や授業内容等に関して

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C: その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。
教室の照明/空調/机・椅子などの備品の状態、等(適切でない場合、自由記述欄に具体的に)

D: 総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。

II. 回答欄:

所属等: 学籍番号のはじめの4ケタを記入してください。

次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④～①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④: あてはまる ③: ややあてはまる ②: あまりあてはまらない ①: あてはまらない

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
B	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
	9	④	③	②	①	
C	10	④	③	②	①	
	11	④	③	②	①	②、①の場合具体的に:
D	12	④	③	②	①	

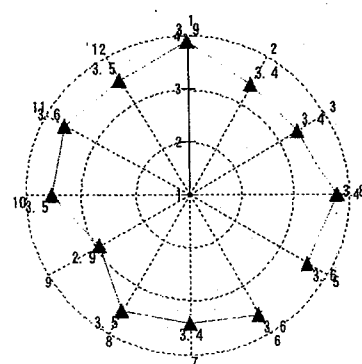
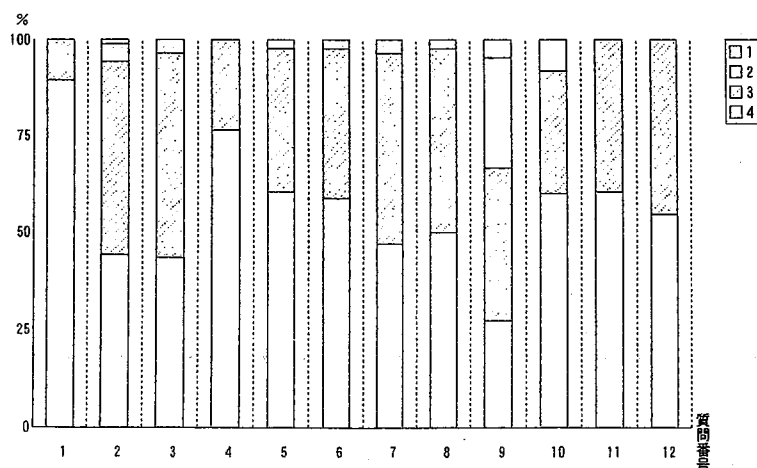
III. その他、この授業について、よかったこと、改善を求めたいこと、等の意見や感想を自由に述べてください。

「学生による授業評価」の結果報告書

科目コード	〇〇〇〇〇	科目区分	共通教育		
授業科目	〇〇〇〇〇				
担当教官	〇〇〇〇〇	実施時期	平成19度 後学期	回答者数	86

I. 集計結果

No.	質問項目	4	3	2	1	合計
1	私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。	76	9			85
2	私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。	38	43	4	1	86
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	37	45	3		85
4	授業はシラバスに沿って行われた。	65	20			85
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	52	32	2		86
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	50	33	2		85
7	重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	40	42	3		85
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	42	40	2		84
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	23	33	24	4	84
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。	51	27	7		85
11	学習環境は適切だった。	52	34			86
12	この授業は満足できるものだった。	47	39			86
		573	397	47	5	1022



II. 受講生の授業評価を受けて、分かったこと、感想、改善すべきことなど
回答用紙で確認ください。

「共通教育担当教員FD活動レポート」

共通教育部自己点検・評価委員会

この調査は教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ることを目的としています。記入にあたっては、各授業科目毎に率直に自分の授業を点検してください。

科目コード:

授業科目:

担当教員:

I. 質問項目:

回答者名: ()

A: 授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検してください。

- 1 シラバスに沿って授業を行えた。
- 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
- 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。
- 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
- 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
- 6 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
- 7 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。
- 8 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

B: FD活動についてお尋ねします。

- 9 この授業科目に関してこの1年間取り組んだFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観 ②学内外のFD講演会等への参加 ③他大学のFD活動の視察 ④その他
- 10 今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観 ②学内外のFD講演会等への参加 ③他大学のFD活動の視察 ④その他

II. 回答欄:

1～8について: 次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④～①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④:あてはまる ③:ややあてはまる ②:あまりあてはまらない ①:あてはまらない

9～10について: 質問に対応する適切な数字を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
B	9	①	②	③	④	④の場合具体的に:
	10	①	②	③	④	④の場合具体的に:

III. 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

第2章 学生による授業評価

【1】全科目の平均について

すべての共通教育科目(全197科目のうち回収された177科目)について、質問項目ごとに評価点の平均を計算すると次の通りである(小数第2位以下は四捨五入)。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全科目の平均	3.9	3.4	3.1	3.6	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.6	3.6	3.4

評価は「4:あてはまる。3:ややあてはまる。2:あまりあてはまらない。1:あてはまらない。」の4段階で行われている。

上の表をグラフにすると右の通りである。横軸は質問項目を、縦軸は評価点の平均を示している。

質問は以下の12項目である。

A:回答者(学生)自身について

- 1 私は75%以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B:担当教員の教え方について

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C:その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。

D:総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。

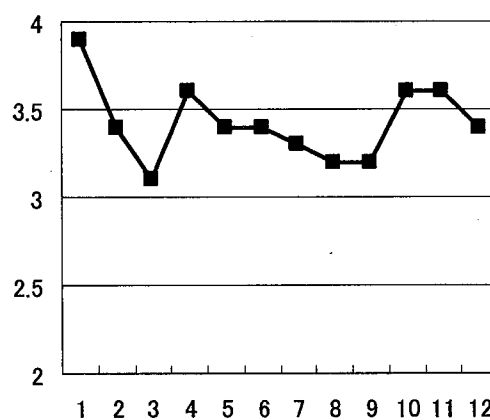


図1 質問項目ごとの全科目の平均

(縦軸の評価2未満の目盛は割愛)

【1-1】全科目平均の動向

16年度からの各学期において、これまで、すべての科目を対象に学生による授業評価が実施されている。そこで、この4年間にどれほどの改善がなされたかをみるために、評価点の平均の動向を整理したものが下の図表である(注:16年度は質問3と質問10は設けていなかったの、下表では空欄にしてあるとともに、下図ではデータ無しとなっている)。

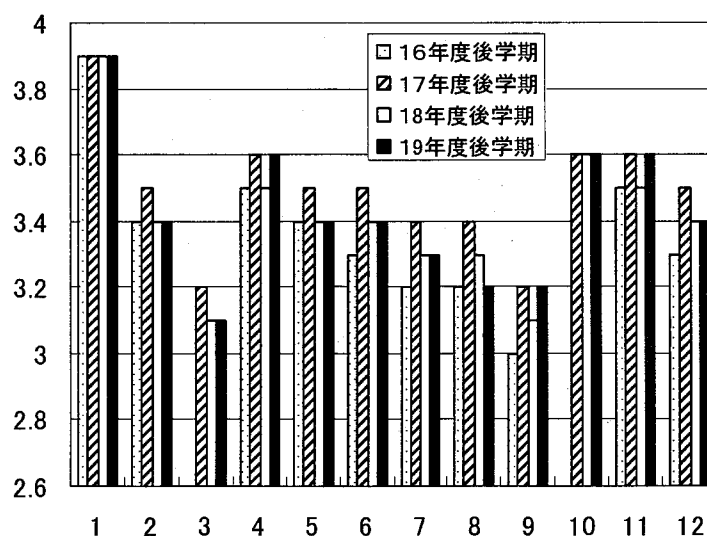
質 問 項 目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16年度前学期	3.9	3.4		3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9		3.4	3.2
16年度後学期	3.9	3.4		3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	3.0		3.5	3.3
17年度前学期	3.9	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.5	3.5	3.3
17年度後学期	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5
18年度前学期	3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3
18年度後学期	3.9	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.6	3.5	3.4
19年度前学期	3.9	3.4	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3
19年度後学期	3.9	3.4	3.1	3.6	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.6	3.6	3.4

○同学期との比較

19年度前学期と今回の結果を比較すると、12項目中7項目において、学生の評価は横ばいであるほか、3項目において1ポイントの上昇、残りの1項目は1ポイントの低下である(本報告書における評価点はすべて、小数第二位以下は四捨五入していることに留意されたい)。

同学期どうして比較した場合、16年度から17年度にかけては、10項目のうち、質問1を除くすべての項目において評価が上がった。次いで、17

年度から18年度にかけては、12項目のうち10項目において逆に下がった。ただし、いずれも1ポイ



ントのみの低下である。そして今回、18年度から19年度にかけては上述したように12項目のうち7項目において横ばい、3項目において1ポイントの上昇である。

このことは、全体平均でみた場合、教育の改善(特に質問4～9の「教員の教え方」)に関して、決して「後退」はしていないものの、向上も十分にはしきれていないことを示唆しているのではないだろうか。特に、質問5～8の4項目(「教員の教え方」のうち、授業内容や話し方に直接関わる項目)や、「総合満足度」における3.2～3.4という評点については、「これで妥当(上位安定)」とみるべきか、あるいは「まだ不十分(改善の余地あり)」とみるべきか、評価が分かれるところであろう。

○4年間における動向

法人化した年度である16年度後学期と今回(19年度後学期)の結果を比較すると、下がった項目は無く、10項目中6項目において、0.1～0.2ポイント上がっている。このことは、4年という期間でみれば、共通教育に対する学生の評価が確実に上がってきていることを示している。

しかし、同時にいえることは、殆どの項目において、特に17年度後学期以降、ドラステックな変化(伸び)が無く、殆どが0.1～0.2ポイント以内の変化にとどまっていることである。いいかえれば、ほぼ横ばい状態であり、やはり特に「教員の教え方」や「総合満足度」に関する評点についてどのようにとらえるべきか、改めて問題提起を行いたい。

他方、質問9の評点は、今回は3.2であり、17年度後学期と同じく、過去最高となった。ただし、質問項目のなかでは依然として低い部類であることから、引き続き、自学自習促進のための指導に関しては、科目ごとの必要性の有無や具体的方法と併せて検討すべきであろう。

以上は、これまでと報告書で述べたことと重複する部分が多いが、今回の報告書でも改めて確認されたことは極めて重要といえる。

法人化直後(16年度前学期)と比べると、学生の評価は上がっている。

ただし、授業内容や教員の話し方、「総合満足度」において、3.2～3.4の評点を達成しているものの、最近では、ほぼ横ばい状態である。

以上の点を踏まえ、今後引き続き検討を進めていく必要がある。

【2】科目群ごとの分析

【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較

共通教育科目を15の科目群に分類した場合の評価点の平均は次の通りである。かつこ内の科目数は開講科目数ではなく、授業評価が提出された科目数である。また、「初修外国語」は通年の評価である。

太字の値は「全科目平均」と比べて0.2ポイント以上高いことを、他方、網掛けの値は「全科目平均」と比べて0.2ポイント以上低いことを示している(±0.1ポイント以内は、そのままにしてある)。

科目群ごとに全科目平均と比較すると下表の通りであるが、ここで挙げる特徴(傾向)が、「人間と文化」と「生命科学系」を除いて、前年同学期の結果と類似していることは注目される(18年度後学期の報告書を改めて参照されたい)。

なお、右から4列目の「平均」は、「教員の教え方など(質問4～9)」の平均値である。

質問項目		学生自身			教員の教え方など							学習環境		総合
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均	10	11	12
全科目平均		3.9	3.4	3.1	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.3	3.6	3.6	3.4
大学 教育 基礎 科目	(1)英語(27 科目)	3.9	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.7	3.6	3.3
	(2)コミュニケーション英語(25 科目)	3.9	3.5	3.1	3.6	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.7	3.7	3.5
	(3)初修外国語(32 科目)	3.9	3.3	3.0	3.5	3.3	3.2	3.2	3.1	3.3	3.2	3.6	3.6	3.3
	(4)保健体育科目(25 科目)	3.9	3.8	3.6	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5	3.1	3.5	3.6	3.6	3.6
主題 教養 科目	(5)現代の社会と倫理(9 科目)	3.9	3.3	3.1	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	3.1	3.4	3.5	3.2
	(6)人間と文化(10 科目)	3.8	3.3	3.1	3.5	3.2	3.2	3.1	3.2	2.9	3.1	3.4	3.5	3.3
	(7)現代社会の課題(8 科目)	3.8	3.3	3.1	3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	2.8	3.2	3.5	3.6	3.3
	(8)自然と生命(9 科目)	3.8	3.2	2.9	3.5	3.0	3.1	3.0	2.9	2.8	3.0	3.4	3.5	3.0
選択 教養 科目	(9)文化・社会系(7 科目)	3.6	3.4	3.1	3.3	3.5	3.3	3.4	3.4	3.1	3.3	3.4	3.5	3.6
	(10)科学・技術系(6 科目)	3.8	3.4	3.2	3.7	3.3	3.4	3.3	3.3	3.0	3.3	3.5	3.6	3.4
	(11)生命科学系(2 科目)	3.9	3.5	3.4	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.1	3.5	3.7	3.5	3.7
	(12)複合・学際系(4 科目)	3.9	3.5	3.3	3.8	3.6	3.7	3.7	3.5	3.1	3.5	3.3	3.7	3.6
	(13)生涯学習系(4 科目)	3.9	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.1	3.5	3.5	3.6	3.7
	(14)外国語系(5 科目)	4.0	3.7	3.2	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8
(15)日本語・日本事情(4 科目)		3.8	3.7	3.7	4.0	3.7	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0

1)大学教育基礎科目

- ・ 「英語」及び「コミュニケーション英語」は、平均でみれば、全科目平均とほぼ同程度の評価である。ただし、「コミュニケーション英語」では、質問5及び質問9(自学自習)は全科目平均より0.2ポイント高い。
- ・ 「初修外国語」は、全科目平均とほぼ同程度の評価であるが、質問6及び8は全科目平均より0.2ポイント低い。
- ・ 「保健体育科目」は、ほぼ全体を通して、全科目平均より高い評価を受けている。

2)主題教養科目

- ・ 「現代の社会と倫理」、「人間と文化」、「自然と生命」は、質問5～10や質問12を中心に、全科目平均より0.2ポイント以上低くなっている。
- ・ 「現代社会の課題」は、質問9において全科目平均より0.2ポイント低いものの、その他は全科目平均とほぼ同程度の評価である。

3)選択教養科目、日本語科目

- ・ 「文化・社会系」は3項目において、「科学・技術系」は1項目において全科目平均より0.2～0.3ポイント低いが、その他の項目は、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- ・ 「生命科学系」、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「外国語系」は、ほぼ全体を通して高い評価を受けており、質問5～8や質問12(総合満足度)等では、全科目平均より0.2ポイント以上高い。特に「外国語系」では10項目で0.2ポイント以上高い。ただし、これらは含まれる科目数(サンプル数)が2～5科目と少ないことには留意する必要がある。
- ・ 「日本語・日本事情」は、受講生が2～3名という限定されたなかでの、かつ留学生における評価であるが、質問1を除く全ての項目で高い評価を受けている。

平均でみれば、「保健体育科目」、「生命科学系」、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「外国語系」は、全体より高い評価の項目が多く、他方、「現代の社会と倫理」、「人間と文化」、「自然と生命」は低い評価の項目が多くなっている。

上記以外の科目は、全科目平均と概ね同程度の評価である。

そして、以上の特徴が、今回もまた前年同学期と概ね類似していることは注目される。

【2-2】前年同期との比較

次に、科目群ごとに前年(平成18年度)前学期と比較する。下表において、評価が0.2ポイント以上、上がった項目には★を、0.1ポイント上がった項目には☆を付けている。他方、評価が0.2ポイント以上、下がった項目には▼を、0.1ポイント下がった項目には▽を付けている。

なお、同学期どうしであっても、各群ともに担当教員、開講科目やその数に変化があるため、必ずしも厳密な比較になり得ないことは申し添えておきたい。

また、受講生が2～3名と少ない「日本語・日本事情」は割愛する。

①大学教育基礎科目

			学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
質問項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大学 教育 基 礎 科 目	(1)英語	18後	3.9	3.3	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.3	3.6	3.6	3.3
		19後	3.9	3.4	▽	3.5	▽	▽	▽			☆		3.3
	(2)コミュニケーション英語	18後	3.9	3.4	3.0	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.3	3.7	3.6	3.4
		19後		☆	☆		☆	☆	☆	☆	☆		☆	☆
	(3)初修外国語	18後	3.9	3.3	2.9	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.2	3.5	3.5	3.3
		19後			☆			▽			☆	☆	☆	
	(4)保健体育科目	18後	3.9	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.1	3.6	3.6	3.6
		19後		☆	☆		☆							

「コミュニケーション英語」では、9項目において評価が上がっていることが注目される。また、「英語」では4項目において低下し、「初修外国語」では4項目、「保健体育科目」で3項目において上昇している。

ただし、このような違いがあるものの、これら4群においては、いずれの項目も0.1ポイント以内の変化にとどまっていることから、前年同期とほぼ同程度の評価であるという。

大学教育基礎科目においては、コミュニケーション英語で
評価が上がっているが、概して変化は小さい。

②主題教養科目

			学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
質問項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
主題 教養 科目	(5)現代の社会と倫理	18後	3.9	3.3	3.1	3.5	3.2	3.1	3.0	3.0	2.9	3.4	3.5	3.1
		19後	3.9	3.3	3.1	3.5	3.2	3.2	☆	☆	2.9	3.4	3.5	☆
	(6)人間と文化	18後	3.8	3.4	3.2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.0	3.4	3.5	3.4
		19後		▽	▽	☆	▼	▽	▼	▽	▽			▽
	(7)現代社会の課題	18後	3.8	3.3	3.1	3.5	3.2	3.2	3.1	3.2	2.9	3.4	3.5	3.3
		19後	3.7	3.2	3.0	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	2.7	3.4	3.5	3.2
	(8)自然と生命	18後	☆	☆	☆	☆	☆			☆	☆	☆	☆	☆
		19後	3.8	3.3	3.1	3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	2.8	3.5	3.6	3.3
		18後	3.8	3.2	2.9	3.4	2.8	3.0	2.8	2.8	2.6	3.3	3.4	2.9
		19後				☆	★	☆	★	☆	★	☆	☆	☆

「現代社会の課題」では10項目において、「自然と生命」では9項目において評価が上がっていることが注目される。特に「自然と生命」では3項目において2ポイントの上昇である。

他方、「人間と文化」では、8項目で評価が下がっており、このことが結果として、全科目平均と比べた低い評価につながっているものと思われる。

「現代の社会と倫理」では、3項目において上昇しているが、その他の項目は前年と同ポイントである。

主題教養科目の評価は、「現代社会の課題と「人間と文化」において、前年より概ね上がっている。

③選択教養科目・専門基礎科目

			学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
質問項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
選択教養基礎科目	(9) 文化・社会系	18後	3.8	3.4	3.2	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	2.9	3.5	3.5	3.4
		19後	▼ 3.6	3.4	▽ 3.1	▼ 3.3	3.5	▽ 3.3	☆ 3.4	☆ 3.4	★ 3.1	▽ 3.4	3.5	★ 3.6
	(10) 科学・技術系	18後	3.8	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	2.8	3.4	3.5	3.4
		19後	3.8	3.4	☆ 3.2	★ 3.7	▽ 3.3	3.4	3.3	☆ 3.3	★ 3.0	☆ 3.5	☆ 3.6	3.4
	(11) 生命科学系	18後	3.9	3.4	3.1	3.5	3.2	3.1	3.1	3.1	2.6	3.4	3.3	3.3
		19後	3.9	☆ 3.5	★ 3.4	★ 3.7	★ 3.5	★ 3.7	★ 3.6	★ 3.6	★ 3.1	★ 3.7	★ 3.5	★ 3.7
	(12) 複合・学際系	18後	3.8	3.4	3.2	3.6	3.7	3.6	3.5	3.4	2.9	3.6	3.6	3.5
		19後	☆ 3.9	☆ 3.5	☆ 3.3	★ 3.8	▽ 3.6	☆ 3.7	★ 3.7	☆ 3.5	★ 3.1	▼ 3.3	☆ 3.7	☆ 3.6
	(13) 生涯学習系	18後	3.9	3.7	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.3	3.7	3.7	3.8
		19後	3.9	▽ 3.6	☆ 3.6	3.7	▽ 3.6	▽ 3.6	▽ 3.6	3.6	▼ 3.1	▼ 3.5	▽ 3.6	▽ 3.7
	(14) 外国語系	18後	3.9	3.7	3.3	3.8	3.6	3.7	3.5	3.7	3.5	3.8	3.8	3.8
		19後	☆ 4.0	3.7	▽ 3.2	3.8	☆ 3.7	☆ 3.8	☆ 3.6	3.7	☆ 3.6	3.8	3.8	3.8

選択教養科目においては、科目群により変化に違いがみられる。

評価の上がった項目が多いのは、「科学技術系」、「生命科学系」、「複合・学際系」、「外国語系」である。特に「生命科学系」では10項目において2ポイント以上、上がっていることが注目される。ただし、これら科目群では前述したように科目数が少ないこと(特に「生命科学系」は2科目のみの評価である)は留意されたい。

「文化・社会系」では、質問7～9及び12において評価が上がっている一方で、5項目において逆に下がっている。

「生涯学習系」では、前述したように全科目平均より概ね高い評価であるが、前年同学期と比べれば8項目において評価が下がっている。

選択教養科目においては、科目群により違いがみられるが、「教員の教え方」を中心に、概ね評価は上がっている。

【2-3】科目単位でみた分布

平均でみた科目群ごとの特徴は以上の通りであるが、当然ながら、同一科目群の中でも科目により評価に違いがある。では、科目別にみた場合、評価点はどのような分布をしているのか。過去4回の報告書と同様に、今回も科目単位での分布をみていくことにする。

下の表は、学生の「総合満足度」を示す質問12と各項目との相関係数(単相関)を計算したものである。「教員の教え方」に関する項目のうちの質問4～8との相関が高く、これは最近4期(17年度後学期, 18年度前学期及び後学期, 19年度前学期)における計算結果と同様となった。特に、授業の内容や教員の話し方, 説明の仕方に直結する質問5～8との相関はほぼ0.9以上である。

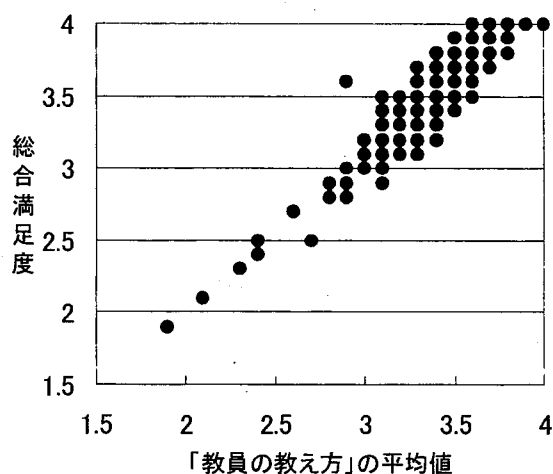
従って、「わかりやすさ」や「意欲・好奇心を掻き立てる教え方」を行うことが学生の「総合満足度」の向上につながることが、今回の結果からも改めて確認される。このことは重要である。

また、質問2(学生の受講態度)や質問3(学生の到達度)との相関も各々0.67, 0.65と、比較的高い。さらに、表示していないが、質問2及び3と質問5～8の相関をみると、0.6から0.7の値を示している。このことから、教員の教え方の良し悪しが学生の受講態度や学生自身の到達度(理解度)にも大きく影響し、ひいては学生の満足度にもつながっていることが示唆される。

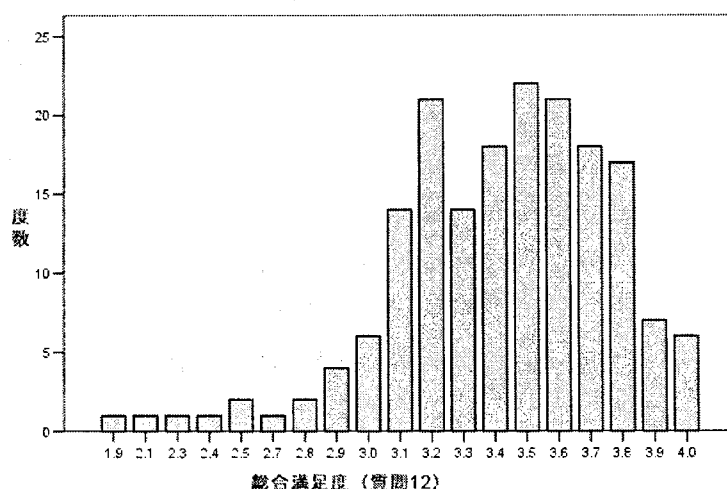
「総合満足度」(質問12)と各項目との相関係数(平成19年度後学期)

学生自身			教員の教え方など					
1	2	3	4	5	6	7	8	9
0.106	0.670	0.648	0.754	0.905	0.894	0.894	0.948	0.552
学習環境		複数項目の平均						
10	11	1-3平均	4-9平均	10-11平均	全項目平均			
0.490	0.618	0.668	0.926	0.576	0.935			

そこで、これまでの報告書と同様に、「総合満足度」(質問12)と「教員の教え方」の平均値(質問4～9の平均値)に着目して両者の関連をみることにする。下左図は、全科目について、横軸に「教員の教え方」の平均値を、縦軸に「総合満足度」をとり、各科目の値をプロットしたものである。両者の相関係数0.93を裏付ける結果が確認される。また右下図は、「総合満足度」の度数分布である。



全科目における分布(H19・後期)



また、図1～14 は、科目群ごとに、横軸に「教員の教え方」の平均値を、縦軸に「総合満足度」をとり、各科目の値をプロットしたものである。左欄の図が 19 年度後学期、右欄の図が 18 年度後学期である(ただし、①両指標ともに同じ値である科目も存在し、これらは図示する際に点[マーカー]が重なるため科目数とマーカーの数は必ずしも一致していないこと、②図2、7の目盛の下限值が他図と異なり 1.5 であることに留意。なお、「日本語・日本事情」の図は割愛)。

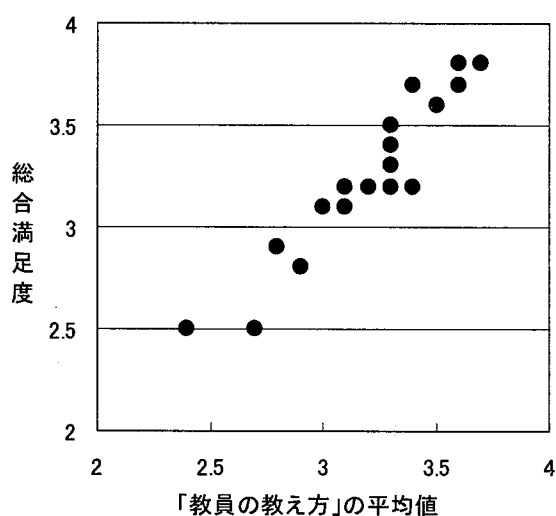


図1-a 英語(H19後期)

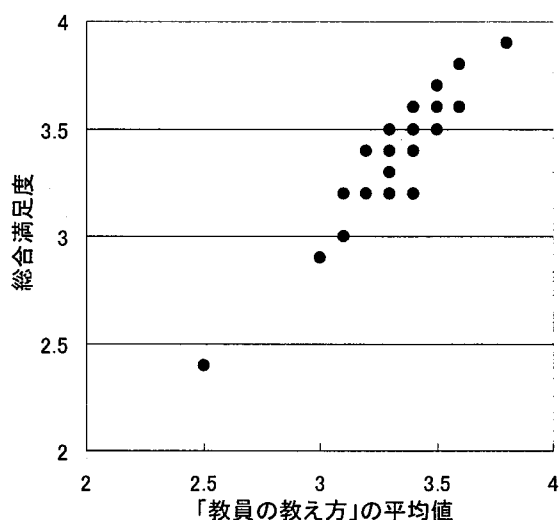


図1-a 英語(H18・後期)

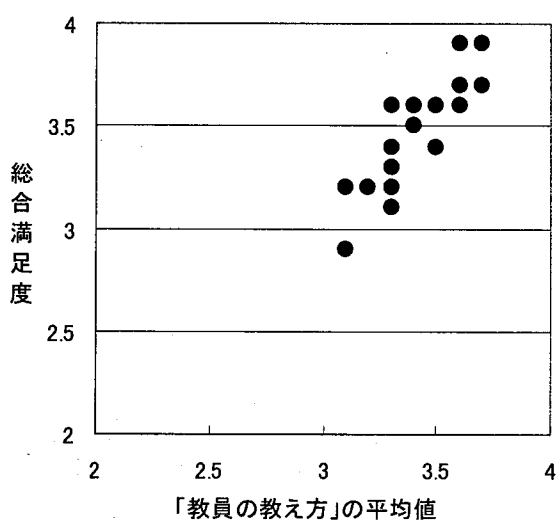


図2-a コミュニケーション英語(H19後期)

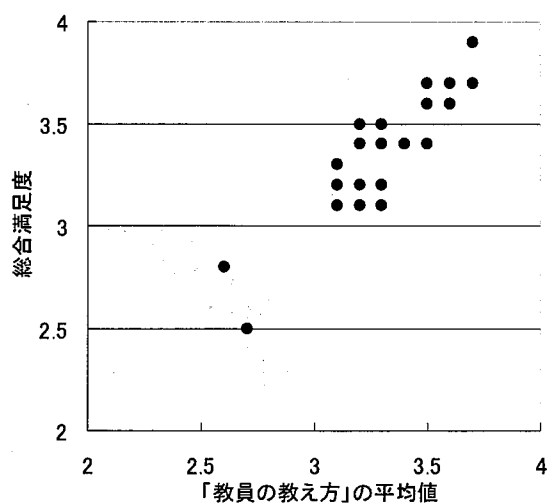
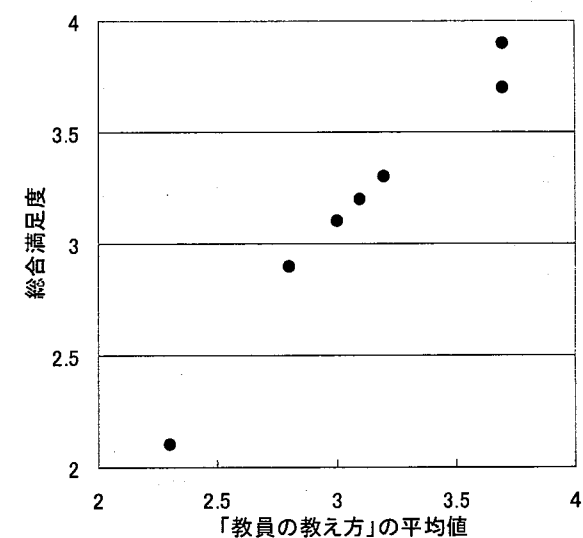
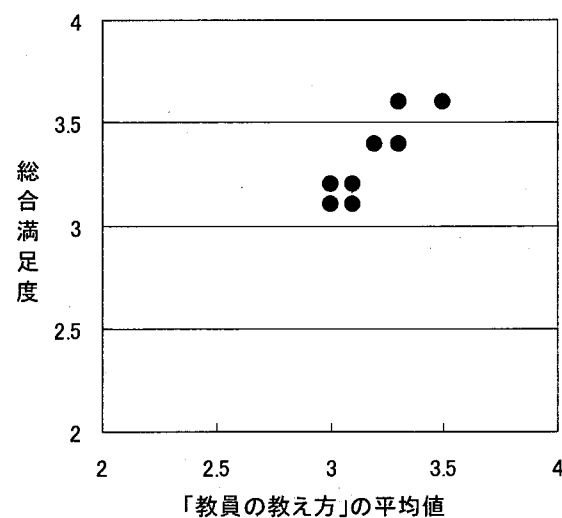
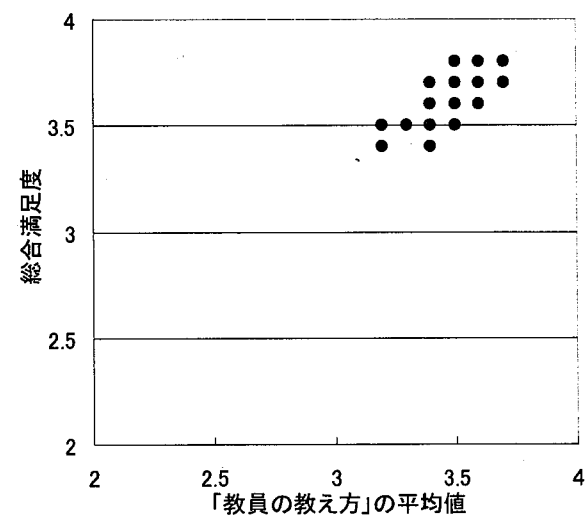
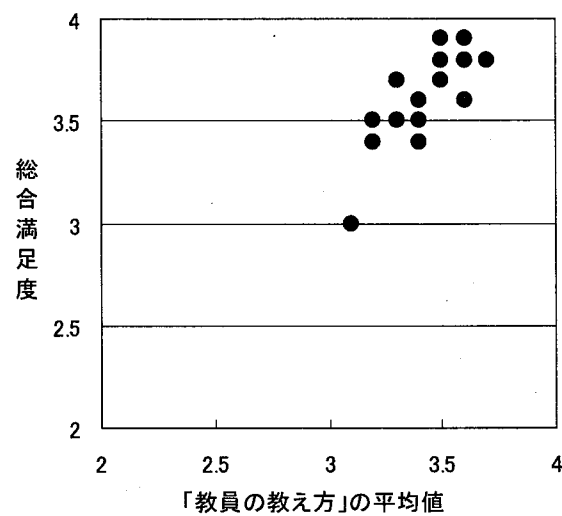
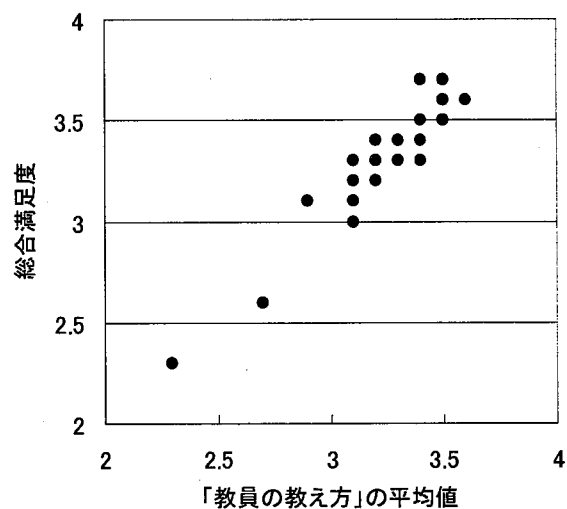
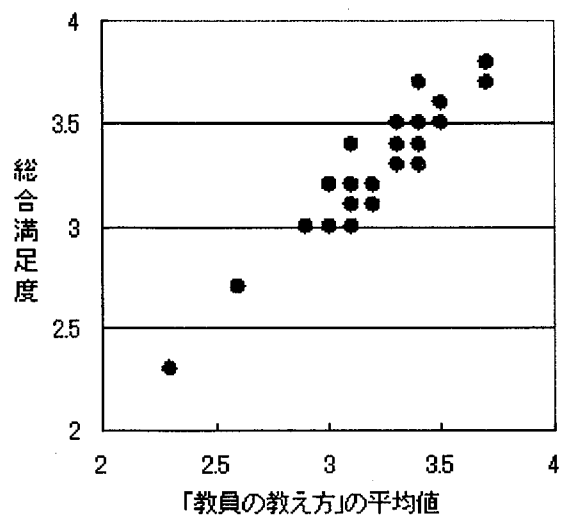


図2-a コミュニケーション英語(H18・後期)



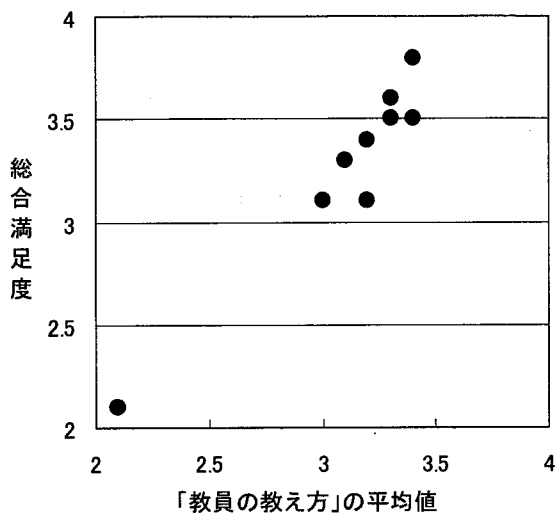


図6-a 人間と文化(H19後期)

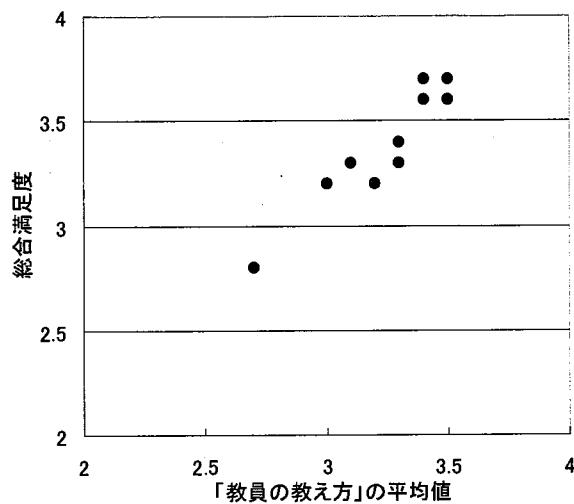


図6-a 人間と文化(H18・後期)

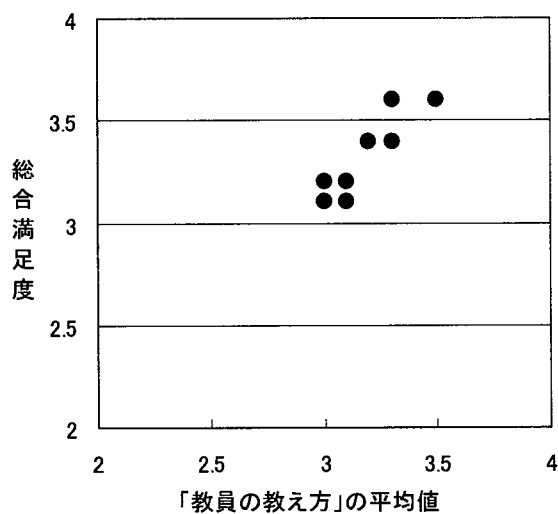


図7-a 現代社会の課題(H19後期)

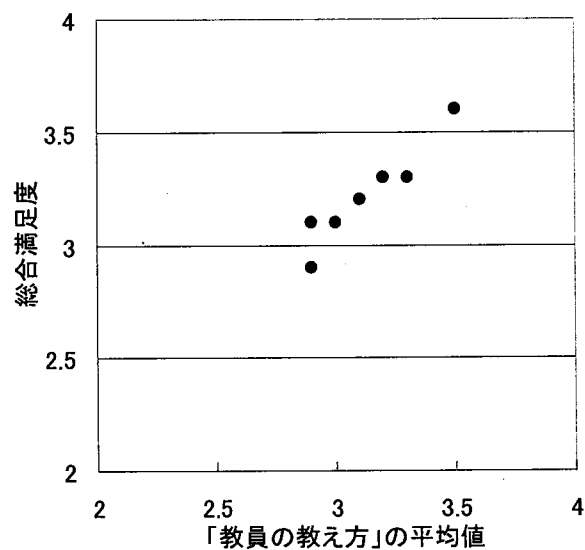


図7-a 現代社会の課題(H18・後期)

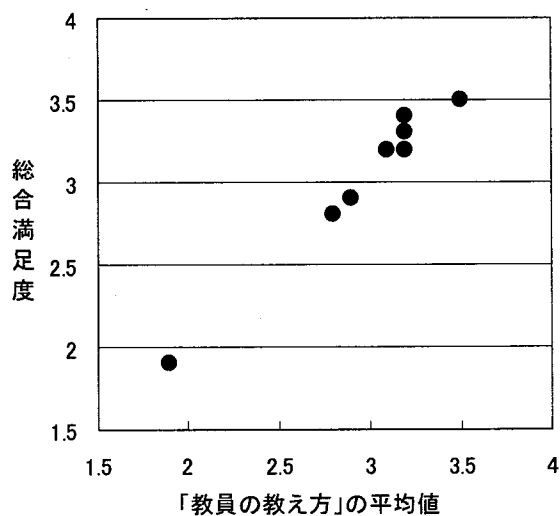


図8-a 自然と生命(H19後期)

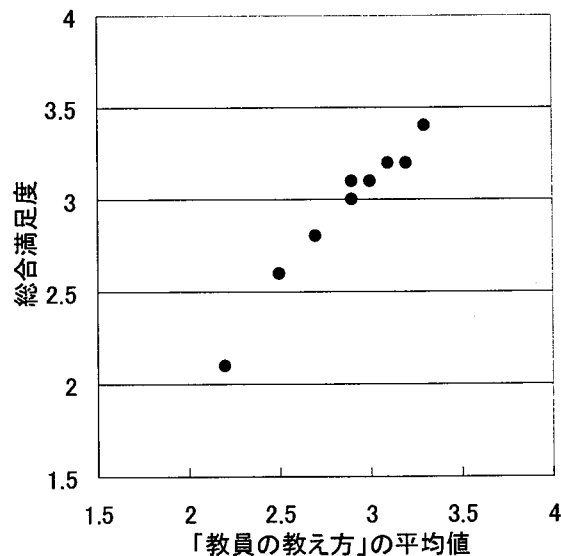


図8-a 自然と生命(H18・後期)

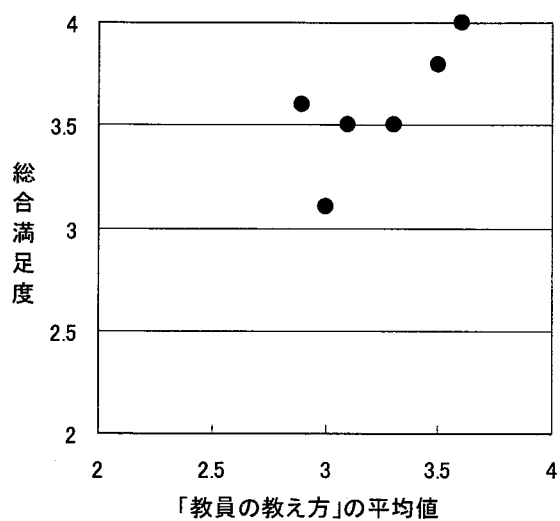


図9-a 文化・社会系(H19後期)

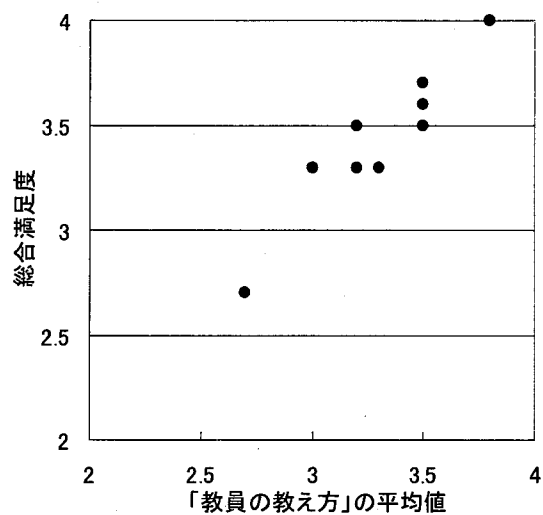


図9-a 文化・社会系(H18・後期)

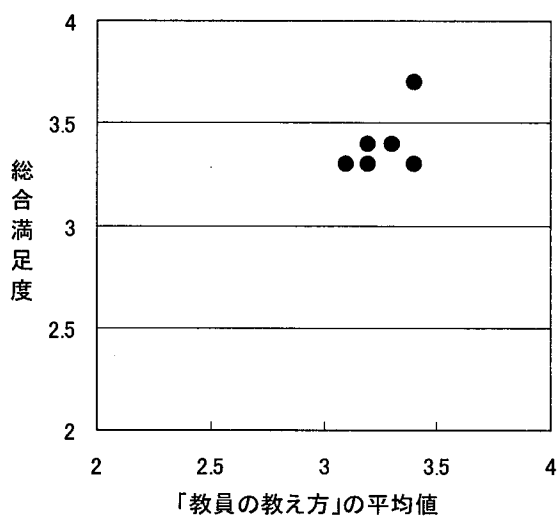


図10-a 科学・技術系(H19後期)

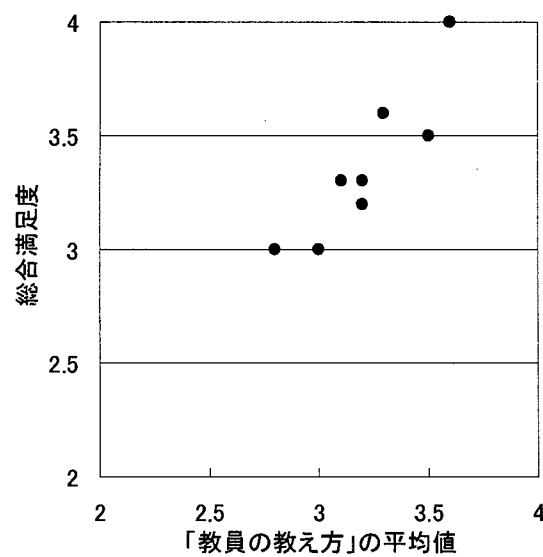


図10-a 科学・技術系(H18・後期)

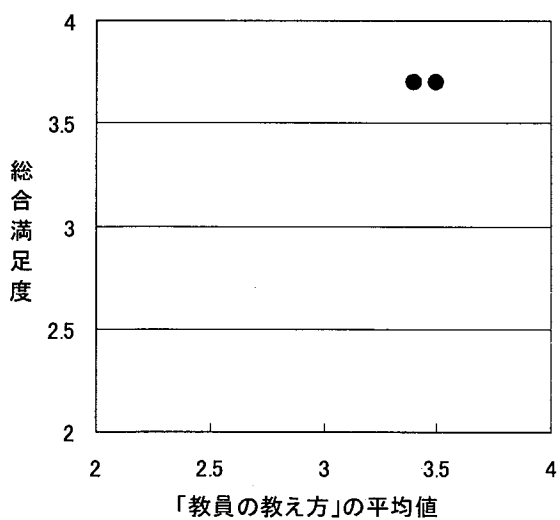


図11-a 生命科学系(H19後期)

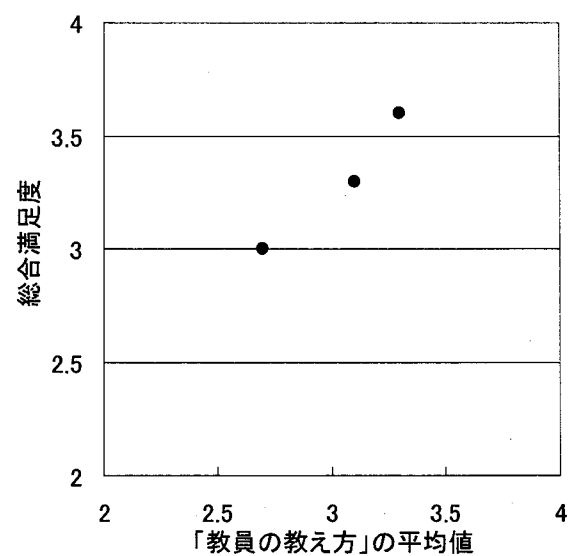


図11-a 生命科学系(H18・後期)

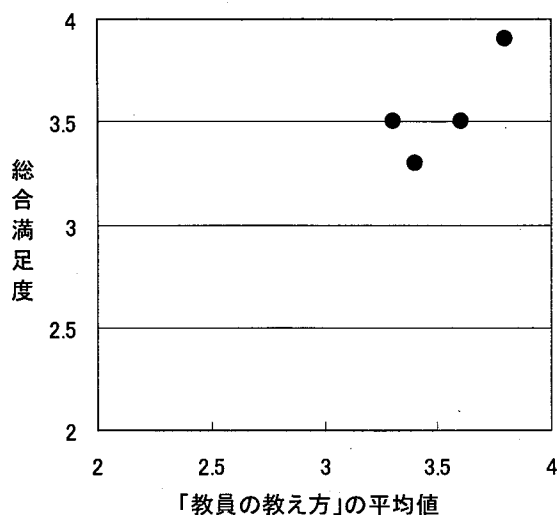


図12-a 複合・学際系(H19後期)

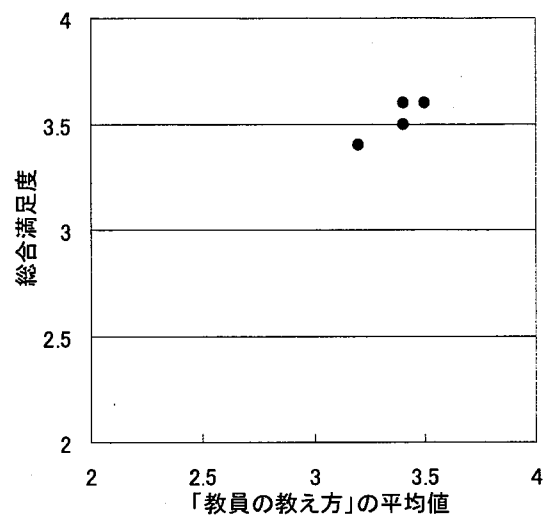


図12-a 複合・学際系(H18・後期)

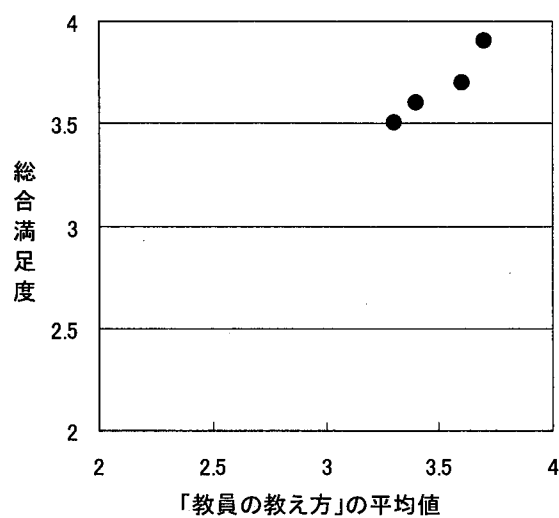


図13-a 生涯学習系(H19後期)

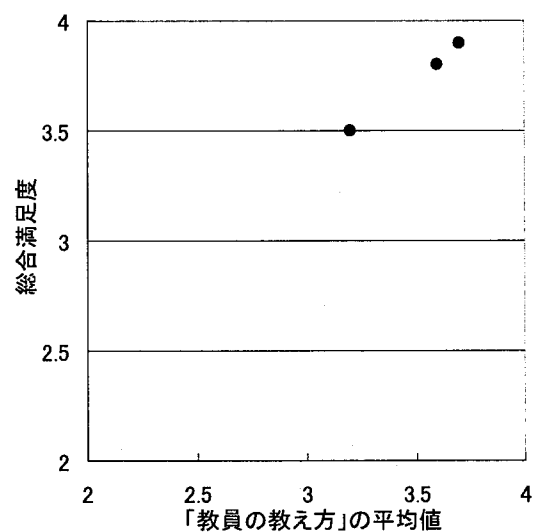


図13-a 生涯学習系(H18・後期)

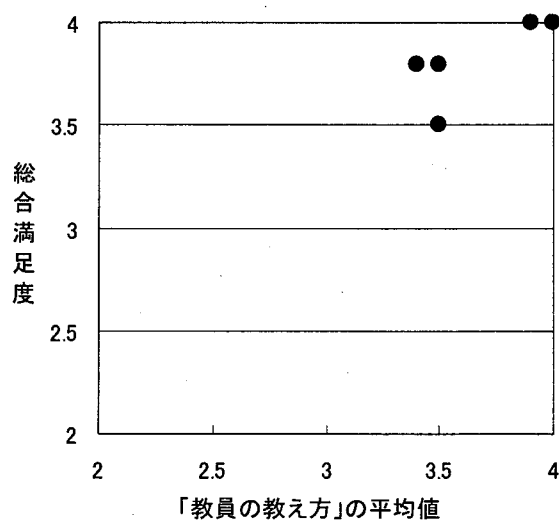


図14-a 外国語系(H19後期)

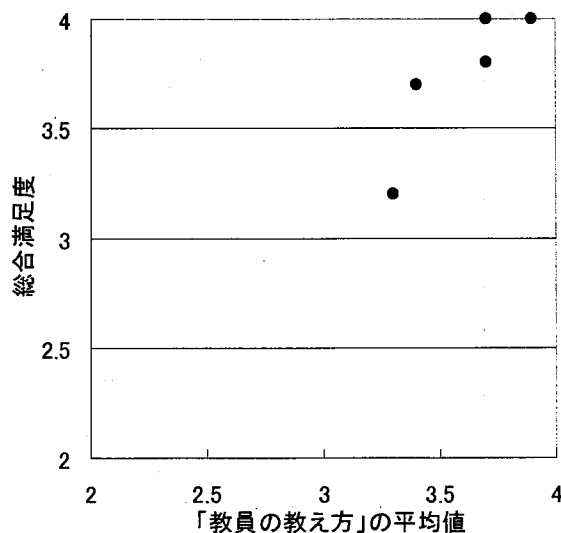


図14-a 外国語系(H18・後期)

科目群により含まれる科目数が大きく異なるため、科目群ごとの厳密な比較はできないが、それでも以下の特徴は指摘できよう(後掲の度数分布の図表も併せて参照されたい)。

①19年度後学期における分布

- ・ 科目による「ばらつき」の有無をどのようにとらえるか、判断が分かれるところであろうが、すべての科目群において、両指標または「総合満足度」が 3.0 をクリアしている科目がほぼ9割(以上)を占める(厳密に言えば、「英語」では85%(27科目中23科目)が該当する)。従って、この「3.0 をクリア」という視点からみれば、科目間の「ばらつき」が小さくなってきていることがうかがえる。
- ・ ただし、科目群によっては、両指標ともに 3.0 に満たない科目が依然として1割程度存在することは留意する必要がある。
- ・ また、「総合満足度」の全科目平均である 3.4 を基準に置くならば、ほぼ半数の科目が 3.4 以上をクリアしている科目群は「英語」、「コミュニケーション英語」、「初修外国語」、「保健体育科目」、「文化・社会系」、「生命科学系」、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「外国語系」である(ただし、後掲5者は含まれる科目数が少ないことには留意)。
- ・ 他方、「現代の社会と倫理」、「人間と文化」、「現代社会の課題」、「自然と生命」、「科学技術系」においては、「総合満足度」が3.4に満たない科目が半数を超える。これら科目群において、全科目平均と比べて評点の低い項目が多いのは、当然ながらこうした科目の存在が影響しているものといえよう。

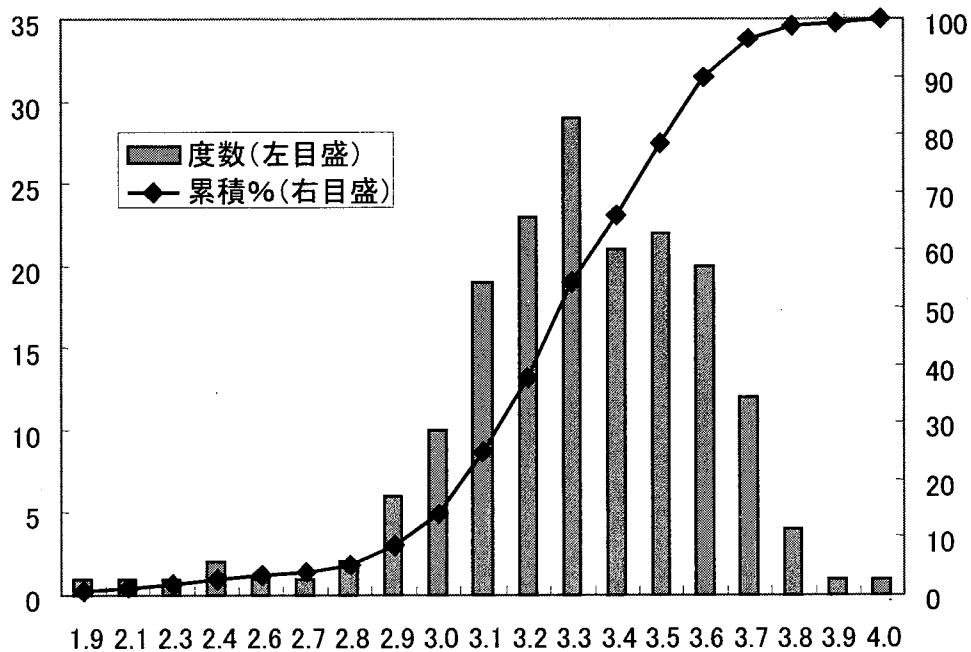
②前年度(18年度)後学期との比較

- ・ 最近の4回の報告書において、殆どの科目群において前年同学期と似通った分布傾向を示していることを指摘したところであるが、今回の分析においてもやはり概ね同様となった。すなわち、科目による評価の偏り具合や、評価の高い科目とやや低い科目の存在状況といった科目群ごとの特徴は、年度が異なっても同様であること。このことが、ここ2年間にわたって検証されたことを、まず記しておきたい。
- ・ そのなかにあって、「コミュニケーション英語」、「現代の社会と倫理」、「現代社会の課題」、「文化・社会系」、「科学・技術系」は、分布が全体的に右上方または上方に移動している。これら科目群では、評点の低い科目が減少(または解消)しており、このことが前年と比べた、評点の平均値の上昇に結びついている。
- ・ 他方、「英語」と「初修外国語」は、分布の状況が前年(及び前々年)と極めて類似している。具体的には、評点が2点台から3点前後の科目が複数存在しており、このことは真摯に受け止めるべきであろう。
- ・ 改めて述べると、4年間を通してみれば、授業評価の始まった 16 年度から比べれば学生の評価は確かに上がってきており、教え方における教員自身の改善・工夫によるところが大きいと考えられる。これは素直に評価すべきである。

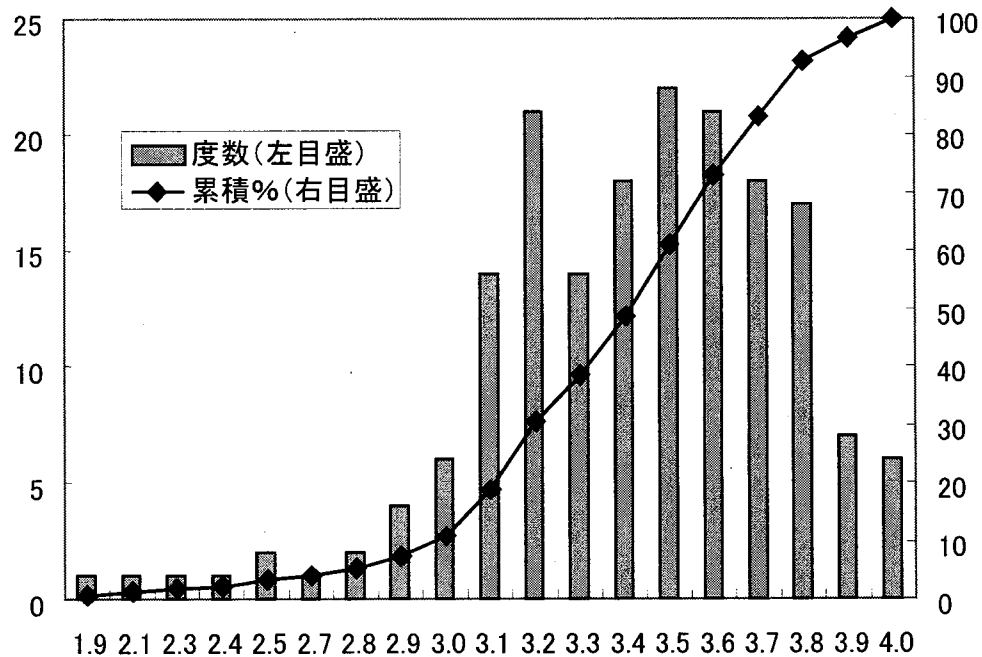
- ・ ただし、前回の報告書においても述べたことであるが、今回並びに最近の結果からいえることは、第1に、科目別にみた分布は、年度や学生が変わっても概ね類似した傾向にあること、すなわち、高い評価の得られている科目が増加する一方で、評価のやや低い科目がやはり依然として存在していることである。また第2に、科目群や科目により違いはあるものの、全体でみれば、学生の評価が最近はほぼ横ばい状態であることである。
- ・ 第1の点に関し、クリアすべき評価点の目安を「あてはまる」の評点である 3.0 に置くならば、学生の「総合満足度」がこの基準に満たない科目は、16 年度後学期は全 166 科目中 28 科目存在したのに対し、17 年度後学期は全 187 科目中 15 科目におよそ半減した。ただし、その後、18 年度後学期は全 183 科目中 16 科目、今回(19 年度後学期)は全 177 科目中 13 科目であり、数自体はほぼ横ばいといえる(次頁の図を参照)。
- ・ 第2の点に関しては、前述した通り、「教員の教え方」のうち、授業の内容や教員の話し方、説明の仕方に直結する質問5～8や「総合満足度」(質問 12)は、全体平均でみれば今回も 3.2～3.4 の評点を達成している。ただし、いわば「上げ止まり」の状態にあるともいえよう。
- ・ これまでの報告書でも引き続き述べたことではあるが、以上の結果については、「これで妥当」とみるべきか、あるいは「まだ不十分」とみるべきか、様々な受け止め方があるだろう。また、授業の内容・性質の違い、年度における担当教員の違いや回収された科目数の違い、受講する学生の違いやその時々の主観等があるため、評価の高低に一喜一憂すべきではない。当然ながら、「学生の評価」イコール「授業の評価」というわけでも決してない。
- ・ ただし、今回並びにこれまでの分析結果は、客観的かつ貴重なデータである。学生に対する教育の充実が、教員自身の日々の教育研究活動にも一層の充実と発展をもたらすものと前向きに受け止め、本報告書の結果を引き続き有効活用して頂ければ幸甚である。

【学生による授業評価結果のまとめ】

- 4年間における動向をみると、共通教育へのFD活動は成果を挙げつつあるといえる。
- しかしながら、科目による評価の差は依然として存在し、また、最近の評価は、ほぼ横ばい状態である。
- こうした点を改めて検証するとともに、教員各自が結果を前向きに受け止め、引き続き、より一層の教育改善に向けて取り組みを進めていくことが望まれる。



「教員の教え方」平均の度数分布と累積%(全科目)



「総合満足度」の度数分布と累積%(全科目)

「教員の教え方」(質問4～9)の平均値の度数分布(該当科目数と割合;平成19年度後学期)

「教員の教え方」の平均値	(上段:科目数、下段:割合)														
	1.9	2.1	2.3	2.4	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6
全体	1	1	1	2	1	1	2	6	10	19	23	29	21	22	20
(1)英語	0.6	0.6	0.6	1.1	0.6	0.6	1.1	3.4	5.6	10.7	13.0	16.4	11.9	12.4	11.3
(2)コミュニケーション英語				1		1	1	1	2	2	3	7	2	3	3
(3)初修外国語				3.7		3.7	3.7	3.7	7.4	7.4	11.1	25.9	7.4	11.1	11.1
(4)保健体育科目				1		1	1	1	2	2	3	7	2	3	3
(5)現代の社会と倫理			1	3.7	1	3.7	3.7	3.7	7.4	7.4	11.1	25.9	7.4	11.1	11.1
(6)人間と文化		1	3.1		3.1			6.3	6.3	18.8	12.5	15.6	15.6	12.5	
(7)現代社会の課題		10.0							2	2	1	2			
(8)自然と生命	1						1	1	25.0	25.0	12.5	25.0		12.5	
(9)文化・社会系	11.1						11.1	11.1		11.1	44.4			11.1	
(10)科学・技術系								14.3	14.3	14.3		14.3	2	28.6	14.3
(11)生命科学系										16.7	33.3	16.7	33.3	1	
(12)複合・学際系													50.0	50.0	
(13)生涯学習系												1	1		1
(14)外国語系												25.0	25.0	25.0	25.0
(15)日本語・日本事情													20.0	40.0	
													1	25.0	
													3	75.0	
													20.0	20.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	5	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													4	4	
													100.0	100.0	
													1	1	
													20.0	20.0	
													1	1	
													25.0	25.0	
													1	1	
													20.0	20.0	

「総合満足度」(質問12)の評点の度数分布(該当科目数と割合;平成19年度後学期)

「総合満足度」の評点	1.9	2.1	2.3	2.4	2.5	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	(上段:科目数, 下段:割合)				合計
																	3.8	3.9	4.0		
全体	1	1	1	1	2	1	2	4	6	14	21	14	18	22	21	18	17	7	6	177	
	0.6	0.6	0.6	0.6	1.1	0.6	1.1	2.3	3.4	7.9	11.9	7.9	10.2	12.4	11.9	10.2	9.6	4.0	3.4	100.0	
(1)英語					2		1	1		3	6	1	2	3	3	3	2			27	
					7.4		3.7	3.7		11.1	22.2	3.7	7.4	11.1	11.1	11.1	7.4			100.0	
(2)コミュニケーション英語								1		1	3	2	2	2	8	4		2		25	
								4.0		4	12.0	8.0	8.0	8.0	32.0	16.0		8.0		100.0	
(3)初修外国語			1			1			4	2	7	3	5	3	3	2	1			32	
			3.1			3.1			12.5	6.3	21.9	9.4	15.6	9.4	9.4	6.3	3.1			100.0	
(4)保健体育科目									1				3	5	2	4	7	3		25	
									4.0				12.0	20.0	8.0	16.0	28.0	12.0		100.0	
(5)現代の社会と倫理				1				1	1	3		1				1	1			9	
				11.1				11.1	11.1	33.3		11.1				11.1	11.1			100.0	
(6)人間と文化		1								2		2	1	2	1		1			10	
		10.0								20.0		20.0	10.0	20.0	10.0		10.0			100.0	
(7)現代社会の課題										2	2		2		2					8	
										25.0	25.0		25.0		25.0					100.0	
(8)自然と生命	1						1	1			3	1	1	1						9	
	11.1						11.1	11.1			33.3	11.1	11.1	11.1						100.0	
(9)文化・社会系										1				2	1		2	1	7		
										14.3				28.6	14.3		28.6		14.3	100.0	
(10)科学・技術系												3	2			1			6		
												50.0	33.3			16.7			100.0		
(11)生命科学系																2					
																100.0				100.0	
(12)複合・学際系												1		2				1	4		
												25.0		50.0				25.0		100.0	
(13)生涯学習系														1	1	1		1	4		
														25.0	25.0	25.0		25.0		100.0	
(14)外国語系																	2		2	5	
																	40.0		40.0	100.0	
(15)日本語・日本事情																	1		3	4	
																	25.0		75.0	100.0	

第3章 教員のFD活動レポート

【1】学生による評価と教員の自己評価の比較

表 3-1 は「学生による授業評価」の質問項目と「教員の FD 活動レポート」の質問項目 A の対応を示したものである。

表 3-2 には、FD 活動レポートの質問項目 8、1～7 に対する 4 段階評価¹⁾の平均値を示すとともに、比較のために、学生による授業評価の平均値（対応する項目）を併記した。また、科目区分ごとの平均受講者数と科目合計を追記するとともに、学生による授業評価の値が FD 活動レポートの値と比べて高い項目については網掛けで示した。

（注：1） 4 段階評価；④あてはまる、③ややあてはまる、②あまりあてはまらない、①あてはまらない

表 3-1 「学生による授業評価」と「教員の FD 活動レポート」の質問項目の対応

学生による授業評価		教員のFD活動レポート	
1	私は75%以上授業に出席した		
2	私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ		
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した	8	シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された
4	授業はシラバスに沿って行われた	1	シラバスに沿って授業を行えた
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった	2	学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった	3	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった
7	重要なポイントが明らかで、説明も分かり易かった	4	重要ポイントを明示し、分かり易く説明した
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった	5	学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した	6	授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった		
11	学習環境は適切だった		
12	満足できる授業だった	7	総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた

表 3-2 「教員の FD 活動レポート」における各質問項目の平均値(科目群別)

科目区分		回答率 ¹⁾	登録者数 ²⁾	質問項目と平均値 ³⁾							
				8	1	2	3	4	5	6	7
大学教育基礎科目	英語	23/27	42(29-49)	3.6 (3.0)	3.8 (3.5)	3.7 (3.3)	3.7 (3.3)	3.8 (3.2)	3.6 (3.2)	3.6 (3.3)	3.6 (3.3)
	コミュニケーション英語	19/25	40(29-49)	3.5 (3.1)	3.9 (3.6)	3.7 (3.6)	3.7 (3.5)	3.7 (3.4)	3.4 (3.4)	3.8 (3.4)	3.6 (3.5)
	初修外国語 ⁴⁾	29/32	62(43-92)	3.3 (3.0)	3.8 (3.5)	3.8 (3.3)	3.7 (3.2)	3.7 (3.2)	3.5 (3.1)	3.4 (3.3)	3.7 (3.3)
	保健体育科目	16/25	39(22-51)	3.1 (3.6)	3.7 (3.7)	3.4 (3.7)	3.6 (3.6)	3.3 (3.5)	3.4 (3.5)	1.9 (3.1)	3.4 (3.6)
主要教育科目	現代の社会と倫理	5/9	146(115-164)	3.4 (3.1)	3.4 (3.5)	3.4 (3.2)	3.2 (3.2)	3.6 (3.1)	3.4 (3.1)	2.2 (2.9)	3.4 (3.2)
	人間と文化	5/11	89(53-160)	4.0 (3.1)	4.0 (3.5)	4.0 (3.2)	3.6 (3.2)	4.0 (3.1)	3.6 (3.2)	3.2 (2.9)	3.8 (3.3)
	現代社会の課題	4/9	117(84-159)	3.8 (3.1)	3.5 (3.5)	3.8 (3.4)	3.5 (3.3)	3.5 (3.2)	3.5 (3.2)	2.5 (2.8)	3.5 (3.3)
	自然と生命	9/10	108(60-159)	3.3 (2.9)	3.7 (3.5)	3.1 (3.0)	3.0 (3.1)	3.5 (3.0)	2.9 (2.9)	2.3 (2.8)	3.1 (3.0)
選択教育科目	文化・社会系	5/11	36(5-95)	3.2 (3.1)	3.4 (3.3)	3.4 (3.5)	2.6 (3.3)	2.6 (3.4)	3.6 (3.4)	2.6 (3.1)	3.0 (3.6)
	科学・技術系	4/7	32(8-77)	3.0 (3.2)	3.0 (3.7)	3.3 (3.3)	3.3 (3.4)	3.3 (3.3)	3.3 (3.3)	2.0 (3.0)	3.0 (3.4)
	生命科学系	2/3	56(20-130)	3.5 (3.4)	3.5 (3.7)	3.5 (3.5)	3.0 (3.7)	3.0 (3.6)	3.0 (3.6)	1.5 (3.1)	3.0 (3.7)
	複合・学際系	4/5	44(9-71)	3.8 (3.3)	4.0 (3.8)	4.0 (3.6)	3.8 (3.7)	4.0 (3.7)	4.0 (3.5)	3.0 (3.1)	4.0 (3.6)
	生涯学習系	1/4	130(50-320)	3.0 (3.6)	4.0 (3.7)	4.0 (3.6)	3.0 (3.6)	3.0 (3.6)	4.0 (3.6)	1.0 (3.1)	3.0 (3.7)
	外国語系	5/6	11(4-19)	3.4 (3.2)	3.8 (3.8)	3.6 (3.7)	3.3 (3.8)	3.6 (3.6)	3.4 (3.7)	3.6 (3.6)	3.4 (3.8)
全体平均		138/197	61	3.5 (3.1)	3.7 (3.6)	3.6 (3.4)	3.4 (3.4)	3.6 (3.3)	3.5 (3.3)	2.8 (3.2)	3.4 (3.4)

注:1) 回答率は、回答科目数/開講科目数。

2) 登録者数は、平均登録者数(最小クラス-最大クラス)を示し、未回答の科目も含む。

なお、「全体平均」の平均登録者数は日本語科目を除いた値。

3) ()内の数値(下段の数値)は、「学生による授業評価」による平均値。

また、網掛けセルは、学生による授業評価の値がFD活動レポートの値と比べて高い項目。

4) 初修外国語は、通年科目(通年での評価)である。

【学生と教員の評価の比較(特徴)】

表3-2の結果に基づいて、FD活動レポートと授業評価について比較する。例年どおり、全般の項目において教員側の自己評価が高い傾向がみられる。その他の特徴についても、従来の傾向をほぼ踏襲している。

特に、質問8(目標への達成度)は、教員の自己評価の方が0.4ポイント高く、また、「教員の教え方」に直接関係するもののうち、質問2(理解度やレベルを踏まえた)、質問4(ポイントを明示し、分かり易く説明)、質問5(学習意欲や好奇心を掻き立てる教え方)は、教員の自己評価の方がやはり0.2~0.3ポイント高い。このような教員の自己評価の方が高い傾向は、(あくまでも科目群の平均でみた傾向であるが)大学教育基礎科目のうちの語学系の科目群において顕著である(他方、「保健体育科目」や選択教育科目においては、学生の評価の方が高い項目が多い項目も比較的多くなっている)。

ただし、そのなかにあって、全科目平均を含め、各科目群における項目6(予習・復習等を課した)については学生の自己評価が高い傾向にある。受講生が講義に望む主体性に対する、受講生と教員サイドでの意識の差を反映していると推察される。すなわち、教員は「足りない」と感じているのに対し、学生は「ほどほど課されている」と思っているようであり、これまでと同様の傾向として注目される。

他方、外国語系(大学教育基礎科目のうちの語学系、及び選択教育科目のうちの「外国語系」)に限っては、質問6が逆の結果である。これら科目に限っては、自学自習の必要性を感じながらも十分には行っていないと学生自身が認識しているものと推察される。

科目の性質の違いや、教員による評価基準等の違いが当然あるため安易な解釈は差し控えるべきであろうが、以上で述べた教員と学生の意識の差(ズレ)が、毎回、類似した形で見受けられることは記しておきたい。

なお、表3-2に受講者数(平均、最大、および最小値)も併記した。これと回答結果との相関についての議論は控えるが、参考までにみられたい。

- 全体として、例年通り、「教員の教え方」や満足度等において教員側の自己評価が高い傾向にある。
- ただし、自学自習の項目に関しては、やはり例年通り学生の評価が高いが、外国語系だけはその逆である。
- また、科目・科目群による受講者数や性格等の違いにより、FD活動レポート評価／授業評価比のパターンは明確に異なることには留意すべきである。

【2】教員のFD活動の状況

「1年間で取り組んだFD活動」、並びに「今後取り組もうと考えているFD活動」について集計したものが下表である(FD活動レポートの質問Bの回答結果)。なお、複数科目を担当する教員が同じコメントを記載している場合には重複回答とみなし、まとめて1回答分として集計した。

表 教員のFD活動の状況と意向(複数回答)

	1年間で取り組んだFD活動		今後取り組もうと考えているFD活動	
	度数	%	度数	%
他教員の授業参観	19	26.8	24	33.8
学内外のFD講演会等への参加	31	43.7	33	46.5
他大学のFD活動の視察	6	8.5	5	7.0
その他	16	22.5	12	16.9
無回答	17	23.9	17	23.9
全体(FD活動レポート回収数)	71	100.0	71	100.0

データ: 19年度後学期の教員のFD活動レポートより。

注: 1名の教員が複数科目担当(回答)の場合は、まとめて1回答分として集計。

「1年間で取り組んだFD活動」としては、「学内外のFD講演会等への参加」が44%と最も高く、次いで「他教員の授業参観」が27%となっている。一方、「今後取り組もうと考えているFD活動」としては、やはり「学内外のFD講演会等への参加」が47%と最も高いが、「他教員の授業参観」が34%に上ることは注目される。

また、「その他」のFD活動としては、以下の内容が挙げられている。

- ・ FD関連資料、文献等を読む(指導書、授業改善資料を含む)
- ・ 自分自身の授業の公開
- ・ 教科書の作成・編集、関連資料の査読
- ・ 他教員との情報交換(テキスト、授業内容等)
- ・ 小中高教員の授業参加、研修会参加
- ・ 教授法の発展のための独自FD

以上の結果を考えると、教員は、普段のかつ「身近」な場所でのFDを行っている、あるいは行おうと考えている傾向がみられる。こうした取り組みは引き続き充実させていく必要があると考えるが、同時に、教員自らが積極的に情報交換や教科書の作成・編集、独自のFD(の開発)等を行おうとする事実も確認され、注目される。

他方、無回答が約4分の1の24%を占めているが、これら教員の多くは、FDは特に行ってはいないことが推察される。FD活動自体は教員の自主性に委ねる部分が多く、また日常業務が「多忙」であるにせよ、仮に、FDに対して、いかえれば自己の教育活動の改善に対して余り関心を持たないとなれば、教員自身の自覚をあらためて促したい。

第4章 科目ごとのデータ一覧

以下に、平成19年度後学期のすべての共通教育科目(全197科目)のうち、「学生による授業評価」が提出された177科目のデータを掲載する(ただし、「初修外国語」は通年の評価であり、この通年評価の扱いに準じて、医学部の集中講義に関しては掲載していない。また、科目名、担当教員名等は掲載していない)。

なお、科目の掲載に際しては、質問12(総合満足度)の評価の高い順に並べ替えてある。

あらためて述べると、評価は「4:あてはまる。3:ややあてはまる。2:あまりあてはまらない。1:あてはまらない。」の4段階で行われている。

また、質問は以下の12項目である。

A:回答者(学生)自身について

- 1 私は75%以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B:担当教員の教え方について

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C:その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。

D:総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。

【1】英語(27科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.6	3.3	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7
2	3.9	3.6	3.2	3.5	3.8	3.8	3.6	3.7	3.4	3.9	3.6	3.8	3.5	3.6
3	4.0	3.5	3.1	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.2	3.8	3.8	3.7	3.5	3.6
4	3.8	3.4	3.3	3.6	3.6	3.7	3.7	3.5	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5	3.6
5	3.8	3.6	3.4	3.8	3.5	3.5	3.3	3.2	3.4	3.9	3.9	3.7	3.6	3.4
6	4.0	3.6	3.0	3.7	3.3	3.6	3.5	3.5	3.7	3.8	3.8	3.6	3.5	3.5
7	3.9	3.6	2.9	3.7	3.5	3.6	3.5	3.6	3.3	3.7	3.8	3.6	3.4	3.5
8	3.9	3.4	3.1	3.7	3.5	3.6	3.7	3.5	3.5	3.7	3.8	3.6	3.4	3.5
9	3.9	3.5	3.1	3.5	3.5	3.2	3.2	3.2	3.4	3.7	3.6	3.5	3.5	3.3
10	3.8	3.3	3.0	3.5	3.7	3.1	3.2	3.3	3.5	3.7	3.6	3.5	3.3	3.3
11	3.7	3.2	3.1	3.5	3.5	3.3	3.4	3.4	3.0	3.7	3.7	3.5	3.3	3.3
12	3.9	3.6	3.3	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.2	3.6	3.7	3.4	3.6	3.3
13	3.9	3.2	3.0	3.5	3.5	3.3	3.3	3.2	3.3	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3
14	3.8	3.3	3.0	3.5	3.5	3.3	3.2	3.1	3.4	3.6	3.6	3.3	3.3	3.3
15	3.9	3.5	3.0	3.5	3.5	3.4	3.5	3.2	3.6	3.8	3.6	3.2	3.4	3.4
16	3.8	3.5	2.9	3.5	3.3	3.5	3.3	3.2	3.3	3.5	3.5	3.2	3.4	3.3
17	3.7	3.5	3.0	3.5	3.3	3.4	3.3	3.1	3.0	3.6	3.5	3.2	3.4	3.2
18	4.0	3.2	2.8	3.6	3.3	3.2	3.1	3.1	3.2	3.6	3.7	3.2	3.3	3.2
19	3.8	3.3	3.0	3.5	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	3.6	3.5	3.2	3.3	3.2
20	3.7	3.1	2.6	3.4	3.2	3.1	3.0	2.9	3.4	3.6	3.3	3.2	3.1	3.1
21	3.9	3.2	3.0	3.3	3.1	3.2	2.9	3.0	3.1	3.7	3.6	3.1	3.3	3.1
22	4.0	3.3	3.2	3.4	3.0	3.1	2.7	3.1	3.0	3.7	3.5	3.1	3.5	3.0
23	3.8	2.9	2.8	3.1	3.2	3.1	2.8	3.0	3.1	3.5	3.5	3.1	3.1	3.0
24	3.9	3.1	2.8	3.1	3.0	3.0	2.7	2.8	2.7	3.3	3.5	2.9	3.2	2.8
25	3.9	3.4	3.0	3.3	2.9	2.9	2.6	2.6	3.3	3.8	3.7	2.8	3.4	2.9
26	3.9	3.3	2.7	3.3	2.6	2.6	2.5	2.2	3.1	3.4	3.4	2.5	3.3	2.7
27	3.9	2.8	2.5	2.9	2.4	2.4	2.4	2.3	2.5	3.4	3.4	2.5	3.0	2.4

※2科目が未提出。

【2】コミュニケーション英語(25科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.7	3.4	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.5	3.9	3.9	3.9	3.6	3.7
2	3.9	3.6	3.1	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.3	3.9	3.5	3.9	3.5	3.6
3	3.9	3.5	3.3	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8	3.7	3.5	3.7
4	3.8	3.6	3.3	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	4.0	3.9	3.7	3.5	3.7
5	3.9	3.8	3.3	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6
6	3.8	3.4	3.0	3.7	3.7	3.6	3.5	3.7	3.5	3.7	3.7	3.7	3.4	3.6
7	3.9	3.7	3.4	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	3.5	3.6	3.6	3.6
8	3.9	3.7	3.2	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6
9	4.0	3.2	3.0	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6
10	3.9	3.2	3.0	3.6	3.8	3.8	3.8	3.5	3.6	3.7	3.8	3.6	3.3	3.6
11	3.8	3.5	3.0	3.7	3.6	3.7	3.5	3.5	3.5	3.8	3.8	3.6	3.4	3.5
12	3.9	3.4	3.1	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.7	3.7	3.6	3.4	3.5
13	3.9	3.7	3.1	3.5	3.6	3.6	3.3	3.4	3.4	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4
14	3.9	3.5	3.1	3.5	3.5	3.5	3.2	3.5	3.1	3.8	3.7	3.6	3.5	3.3
15	3.9	3.5	2.9	3.6	3.6	3.5	3.3	3.5	3.1	3.5	3.7	3.5	3.4	3.4
16	3.9	3.4	3.1	3.6	3.6	3.5	3.3	3.5	3.2	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4
17	3.9	3.0	2.8	3.6	3.5	3.6	3.6	3.2	3.5	3.6	3.7	3.4	3.2	3.5
18	4.0	3.7	3.0	3.7	3.5	3.6	3.4	3.2	2.9	3.7	3.8	3.4	3.5	3.3
19	3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.1	3.1	3.5	3.8	3.8	3.3	3.5	3.3
20	3.9	3.0	2.8	3.3	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	2.9	3.5	3.3	3.2	3.3
21	3.8	3.1	2.7	3.4	3.7	3.2	3.3	2.9	3.5	3.7	3.7	3.2	3.2	3.3
22	3.8	3.4	2.9	3.5	3.4	3.2	3.1	3.1	3.3	3.6	3.5	3.2	3.3	3.2
23	4.0	3.1	2.7	3.5	3.4	3.2	3.0	2.8	3.1	3.5	3.6	3.2	3.2	3.1
24	3.9	3.6	3.0	3.6	3.4	3.4	3.2	3.0	3.2	3.6	3.6	3.1	3.5	3.3
25	3.9	3.6	3.2	3.5	3.3	3.3	3.0	2.8	3.2	3.7	3.6	2.9	3.5	3.1

※2科目が未提出。

【3】初修外国語(32科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.5	3.1	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.8	3.7	3.8	3.5	3.7
2	3.9	3.5	3.1	3.8	3.7	3.8	3.8	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.5	3.7
3	3.8	3.4	3.1	3.7	3.6	3.3	3.3	3.5	3.3	3.8	3.8	3.7	3.4	3.4
4	3.9	3.6	3.0	3.7	3.5	3.6	3.6	3.3	3.4	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5
5	3.9	3.5	2.8	3.6	3.6	3.6	3.7	3.4	3.4	3.8	3.7	3.6	3.4	3.5
6	3.9	3.5	3.0	3.5	3.6	3.7	3.7	3.4	3.5	3.7	3.7	3.6	3.4	3.5
7	3.9	3.5	3.3	3.7	3.6	3.5	3.7	3.3	3.6	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5
8	3.8	3.3	3.1	3.5	3.5	3.5	3.6	3.3	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4
9	4.0	3.5	3.2	3.5	3.6	3.4	3.3	3.3	2.9	3.7	3.7	3.5	3.5	3.3
10	3.9	3.3	3.2	3.4	3.6	3.5	3.5	3.2	3.5	3.2	3.5	3.4	3.4	3.4
11	3.8	3.5	2.8	3.5	3.2	3.4	3.5	3.3	3.5	3.7	3.6	3.4	3.3	3.4
12	3.9	3.6	3.0	3.6	3.2	3.3	3.2	3.2	3.5	3.7	3.7	3.4	3.5	3.3
13	3.8	3.5	3.2	3.7	3.2	3.4	3.2	3.3	3.3	3.4	3.5	3.4	3.5	3.3
14	3.8	3.1	3.0	3.4	3.4	3.1	3.0	3.0	2.9	3.5	3.5	3.4	3.3	3.1
15	3.9	3.3	2.7	3.6	3.5	3.6	3.6	3.1	3.4	3.7	3.7	3.3	3.3	3.4
16	3.8	3.3	2.7	3.5	3.2	3.3	3.3	3.5	3.0	3.6	3.6	3.3	3.2	3.3
17	3.7	3.2	2.9	3.6	3.3	3.5	3.5	3.1	3.3	3.6	3.5	3.3	3.2	3.3
18	3.9	3.4	2.9	3.4	3.0	3.2	3.0	3.2	3.4	3.2	3.6	3.2	3.4	3.2
19	3.9	3.3	3.1	3.5	3.5	3.2	3.0	3.0	3.3	3.6	3.6	3.2	3.4	3.2
20	3.9	3.4	3.1	3.5	3.3	3.1	3.0	3.0	3.5	3.7	3.6	3.2	3.4	3.2
21	3.9	3.3	3.1	3.3	3.0	3.1	3.0	3.1	3.4	3.5	3.6	3.2	3.4	3.1
22	3.8	3.3	3.2	3.3	3.1	3.1	2.8	2.9	3.4	3.6	3.5	3.2	3.4	3.1
23	3.9	3.4	2.9	3.4	3.2	3.0	2.9	3.1	3.3	3.6	3.6	3.2	3.4	3.1
24	3.9	3.6	3.0	3.4	2.9	2.9	2.8	2.9	3.2	3.7	3.7	3.2	3.5	3.0
25	3.8	3.2	2.9	3.2	3.4	3.3	3.5	3.0	3.2	3.5	3.5	3.1	3.3	3.2
26	3.8	3.0	2.9	3.4	3.1	3.2	3.1	2.8	3.2	3.2	3.3	3.1	3.2	3.1
27	3.6	3.1	2.9	3.3	3.2	3.0	3.0	2.9	3.2	3.3	3.5	3.0	3.2	3.1
28	3.9	3.6	2.8	3.5	2.8	3.2	2.9	2.8	3.3	3.6	3.7	3.0	3.4	3.0
29	3.9	3.6	3.1	3.4	3.0	2.7	2.6	2.6	3.2	3.7	3.6	3.0	3.5	2.9
30	3.8	3.3	3.1	3.3	3.2	2.9	2.9	2.7	2.9	3.3	3.3	3.0	3.4	2.9
31	3.9	3.0	2.6	2.9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.8	3.5	3.5	2.7	3.1	2.6
32	3.8	2.3	2.1	2.7	1.9	2.2	2.2	2.4	2.6	3.4	3.2	2.3	2.7	2.3

※3科目が未提出。

【4】保健体育科目(25科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.8	3.1	3.8	3.9	3.9	3.8	3.6
2	3.9	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.6	3.7	3.3	3.7	3.8	3.9	3.8	3.6
3	3.9	3.8	3.5	3.8	3.8	3.6	3.6	3.7	3.0	3.6	3.7	3.9	3.7	3.5
4	3.9	3.8	3.7	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7
5	3.9	3.9	3.5	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.4	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7
6	4.0	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.3	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7
7	3.8	3.7	3.6	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.4	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7
8	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.4	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6
9	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.2	3.5	3.6	3.8	3.7	3.6
10	4.0	3.8	3.6	3.8	3.7	3.5	3.5	3.6	3.1	3.6	3.6	3.8	3.8	3.5
11	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.6	2.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.5
12	4.0	3.8	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.1	3.5	3.6	3.7	3.8	3.5
13	3.9	3.7	3.4	3.7	3.7	3.6	3.7	3.6	3.2	3.8	3.8	3.7	3.6	3.5
14	3.9	3.5	3.4	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	3.0	3.4	3.3	3.7	3.6	3.3
15	3.9	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.6	3.3	3.7	3.8	3.6	3.8	3.6
16	3.9	3.5	3.3	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	3.1	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4
17	3.9	3.7	3.5	3.7	3.5	3.5	3.5	3.4	3.2	3.5	3.5	3.5	3.7	3.4
18	3.9	3.8	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	2.8	3.4	3.4	3.5	3.7	3.3
19	3.9	3.8	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	3.4	3.0	3.5	3.5	3.5	3.7	3.3
20	4.0	3.9	3.5	3.5	3.5	3.3	3.4	3.3	2.7	3.4	3.5	3.5	3.8	3.2
21	3.9	3.7	3.6	3.5	3.5	3.3	3.2	3.4	2.8	3.5	3.6	3.5	3.7	3.2
22	3.9	3.8	3.5	3.7	3.6	3.4	3.3	3.5	3.0	3.7	3.3	3.4	3.7	3.4
23	3.9	3.7	3.3	3.6	3.5	3.4	3.3	3.2	2.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.2
24	3.8	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.2	3.2	2.8	3.5	3.6	3.4	3.6	3.2
25	3.8	3.8	3.6	3.5	3.2	3.2	3.3	2.9	3.0	3.1	3.3	3.0	3.7	3.1

※未提出の科目はない。

【5】現代の社会と倫理(9科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.5	3.3	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8	3.5	3.7	3.7	3.8	3.5	3.6
2	3.9	3.7	3.3	3.8	3.6	3.8	3.8	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6
3	3.8	3.3	3.2	3.5	3.3	3.3	3.1	3.1	2.9	3.4	3.4	3.3	3.4	3.2
4	3.9	3.2	3.1	3.3	3.3	3.4	3.2	3.2	2.9	3.2	3.4	3.1	3.4	3.2
5	3.8	3.4	3.1	3.5	3.1	3.1	3.1	3.0	2.9	3.4	3.5	3.1	3.4	3.1
6	3.8	3.1	3.0	3.4	3.2	3.2	3.0	3.1	2.6	3.5	3.4	3.1	3.3	3.0
7	3.9	3.2	3.2	3.4	3.1	3.0	3.0	3.0	2.6	2.9	3.2	3.0	3.4	3.0
8	3.9	3.2	2.9	3.5	2.9	3.0	2.8	2.8	2.6	3.3	3.4	2.9	3.3	2.9
9	3.8	3.2	2.6	3.1	2.3	2.4	2.2	2.2	2.5	3.3	3.4	2.4	3.2	2.4

※未提出の科目はない。

【6】人間と文化(10科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.4	3.3	3.8	3.6	3.6	3.4	3.5	2.7	3.4	3.6	3.8	3.5	3.4
2	3.8	3.5	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5	3.5	2.9	3.2	3.5	3.6	3.5	3.3
3	3.9	3.5	3.1	3.8	3.4	3.6	3.4	3.4	3.1	3.7	3.5	3.5	3.5	3.4
4	3.8	3.6	3.1	3.3	3.3	3.4	3.3	3.5	3.1	3.6	3.7	3.5	3.5	3.3
5	3.8	3.2	3.1	3.4	3.3	3.4	3.2	3.3	3.0	3.2	3.5	3.4	3.3	3.2
6	3.9	3.4	3.2	3.4	3.1	3.2	3.2	3.2	3.0	3.4	3.5	3.3	3.5	3.1
7	3.6	3.2	3.1	3.5	3.3	3.2	2.9	3.0	2.7	3.7	3.7	3.3	3.3	3.1
8	3.9	3.5	3.3	3.6	3.3	2.9	3.0	3.1	3.4	3.5	3.5	3.1	3.5	3.2
9	3.9	3.1	3.1	3.5	3.1	3.2	2.9	3.0	2.6	3.4	3.5	3.1	3.3	3.0
10	3.8	3.0	2.2	2.9	1.9	1.9	1.8	2.0	2.1	3.2	3.4	2.1	3.0	2.1

※1科目が未提出。

【7】現代社会の課題(8科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.8	3.4	3.0	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	2.8	3.6	3.7	3.6	3.4	3.5
2	3.9	3.7	3.3	3.6	3.6	3.6	3.4	3.3	2.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.3
3	3.9	3.4	3.2	3.6	3.5	3.5	3.3	3.2	3.1	3.8	3.7	3.4	3.5	3.3
4	3.7	3.2	3.3	3.4	3.5	3.2	3.1	3.3	2.8	3.3	3.4	3.4	3.4	3.2
5	3.8	3.4	3.1	3.5	3.4	2.9	3.2	3.1	2.9	3.6	3.5	3.2	3.4	3.1
6	3.8	3.2	2.9	3.5	3.2	3.1	3.0	3.1	2.6	3.5	3.5	3.2	3.3	3.0
7	3.8	3.2	3.1	3.4	3.3	3.3	3.2	2.9	2.7	3.3	3.4	3.1	3.3	3.1
8	3.8	3.2	3.0	3.4	3.2	3.0	3.0	3.0	2.7	3.5	3.5	3.1	3.3	3.0

※1科目が未提出。

【8】自然と生命(9科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.4	3.0	3.8	3.5	3.8	3.6	3.4	3.2	3.8	3.7	3.5	3.4	3.5
2	3.8	3.3	3.0	3.4	3.2	3.4	3.2	3.2	2.9	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2
3	3.8	3.1	3.0	3.5	3.1	3.3	3.3	3.2	2.8	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2
4	3.8	3.4	3.1	3.6	3.3	3.4	3.3	3.1	2.9	3.6	3.5	3.2	3.4	3.2
5	3.9	3.3	3.1	3.6	3.3	3.4	3.2	3.1	2.8	3.4	3.5	3.2	3.4	3.2
6	3.8	3.3	3.2	3.6	3.3	3.2	3.1	2.9	2.9	3.3	3.5	3.2	3.4	3.1
7	3.9	3.1	2.9	3.5	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	3.3	3.4	2.9	3.3	2.9
8	3.6	3.1	2.8	3.1	2.9	3.1	2.8	2.8	2.6	3.4	3.4	2.8	3.1	2.8
9	3.9	2.9	2.2	3.0	1.5	1.8	1.5	1.8	2.2	3.1	3.3	1.9	3.0	1.9

※1科目が未提出。

【9】文化・社会系(7科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.8	3.8	2.2	3.0	3.8	3.5	3.7	3.8	4.0	4.0	3.8	4.0	3.2	3.6
2	3.9	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.3	3.5	3.5	3.8	3.6	3.5
3	3.6	3.4	3.4	3.8	3.7	3.4	3.7	3.6	3.3	3.6	3.5	3.8	3.4	3.5
4	3.0	3.0	3.3	3.0	3.3	3.6	3.0	3.0	2.0	2.6	3.3	3.6	3.1	2.9
5	3.5	3.5	3.1	3.3	3.4	3.2	3.3	3.4	3.5	3.1	3.3	3.5	3.3	3.3
6	3.9	3.4	3.2	3.5	3.3	3.1	3.2	3.2	2.8	3.5	3.7	3.5	3.5	3.1
7	3.8	3.2	3.0	3.2	3.3	2.9	3.1	3.0	2.8	3.4	3.4	3.1	3.3	3.0

※3科目が未提出。

【10】科学・技術系(6科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.7	3.9	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	3.1	3.7	3.6	3.7	3.7	3.4
2	3.9	3.4	3.3	3.6	3.5	3.4	3.4	3.2	2.9	3.2	3.4	3.4	3.5	3.3
3	3.8	3.1	3.2	3.4	3.5	3.4	3.3	3.3	2.6	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2
4	4.0	3.8	3.6	4.0	3.3	3.3	3.1	3.5	3.3	3.3	3.6	3.3	3.8	3.4
5	3.8	3.2	2.9	3.6	2.9	3.4	3.1	3.0	3.2	3.6	3.7	3.3	3.3	3.2
6	3.8	3.1	2.7	3.7	3.1	3.2	3.2	3.0	2.6	3.6	3.6	3.3	3.2	3.1

※1科目が未提出。

【11】生命・科学系(2科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.9	3.5	3.2	3.7	3.5	3.8	3.6	3.7	3.2	3.8	3.6	3.7	3.5	3.5
2	3.9	3.5	3.5	3.7	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.6	3.4	3.7	3.6	3.4

※1科目が未提出。

【12】複合・学際系(4科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	3.8	3.6	3.5	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.6	3.6	3.8	3.9	3.6	3.8
2	4.0	3.7	3.5	4.0	3.7	3.7	4.0	3.7	2.5	2.7	3.7	3.5	3.7	3.6
3	3.7	3.2	2.9	3.4	3.5	3.6	3.2	3.2	3.0	3.5	3.6	3.5	3.2	3.3
4	3.9	3.4	3.1	3.8	3.3	3.7	3.5	3.1	3.1	3.5	3.5	3.3	3.4	3.4

※1科目が未提出。

【13】生涯学習系(4科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.4	3.7	3.8	3.9	3.9	3.7
2	3.9	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.3	3.2	3.4	3.7	3.6	3.6
3	3.8	3.4	3.4	3.7	3.5	3.5	3.5	3.4	3.0	3.6	3.7	3.6	3.5	3.4
4	3.8	3.3	3.4	3.7	3.5	3.5	3.4	3.4	2.8	3.5	3.6	3.5	3.5	3.3

※1科目が未提出。

【14】外国語系(5科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	4.0	4.0	3.6	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	4.0
2	4.0	4.0	3.2	4.0	4.0	4.0	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.7	3.9
3	3.8	3.6	2.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	4.0	3.8	3.4	3.5
4	4.0	3.6	3.0	3.9	3.5	3.8	3.2	3.3	3.0	3.8	3.6	3.8	3.5	3.4
5	4.0	3.5	3.2	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5

※1科目が未提出。

【15】日本語・日本事情(4科目)

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	1-3 平均	4-9 平均
1	4.0	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	3.8	4.0	3.8	4.0	3.9	3.8
2	3.6	3.6	3.3	4.0	3.6	3.6	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	3.8
3	3.7	3.7	3.7	4.0	3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	4.0	4.0	4.0	3.7	3.7
4	4.0	3.8	3.6	4.0	3.6	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8

※1科目が未提出。

第5章 総 括

共通教育においては、「学生による授業評価」及び「教員のFD活動レポート」を平成16年度以降、継続して実施してきた。そして、結果については毎回、報告書として取りまとめ、活用されてきたところである。

その結果、第2章において述べたように、この4年間ににおいては、学生による授業評価は向上してきており、共通教育におけるFD活動は成果を挙げつつあること、しかしながら、科目による評価の差は依然として存在し、また、最近の評価はほぼ横ばい状態であることが明らかになった。

以上の事柄を確認できるのは、学生や教職員の協力のもとに継続して調査を実施していることによるものであるが、ここであらためて4年間ににおける「学生による授業評価」の回収率、及び「教員のFD活動レポート」の提出率を整理すると下表の通りである。

「学生による授業評価」は平成18年度以降、96～97%という高い回収率であったが、今回（平成19年度後学期）は90%と低下した。一方、「教員のFD活動レポート」の提出率は80%以上に向上していたものの、今回も前回（平成19年度前学期）以上に低い70%にとどまっている。

前回（平成19年度前学期）の報告書においても述べたことであるが、本調査をはじめとするFD活動は制度としては定着しているものの、授業評価やFDに対して、ある意味、飽和あるいは停滞といえる意識も、教員のなかに多少あるのではないだろうか。

自身のことを常に客観的にみつめ、継続して取り組んでいくことの重要性を再認識するとともに、単に自身のことにとどまらず、他教員や本学の教育全体の向上を図っていくためにも、すべての教員が上記調査に取り組んで頂きたいと願う次第である。

表 回収率・提出率の推移

	学生による 授業評価	教員の FD活動レポート
平成16年度前学期	87%	75%
平成16年度後学期	80%	58%
平成17年度前学期	82%	68%
平成17年度後学期	89%	85%
平成18年度前学期	96%	85%
平成18年度後学期	96%	83%
平成19年度前学期	97%	73%
平成19年度後学期	90%	70%

次に、今回、並びにこれまでの調査結果からみる共通教育における課題を、今後の検討のための材料を提供する意味で以下に整理する。

第1に、学生の授業評価における最近の動向や「教員の教え方」等について、どのように評価するかである。繰り返しになるが、授業の内容や教員の話し方、説明の仕方に関連する項目や「総合満足度」は、全体平均でみれば今回も3.2～3.4の評点を達成している。他方、「上げ止まり」の状態にあるともいえる。いわゆる「良い講義」や「わかりやすい講義」というのは教員や学生により受け止め方が異なるし、科目の性格、教える内容・レベルにより評価点は当然変わってくる。ただし、教員各位が、自分なりのさらなる向上に対して、常に関心を持って頂きたい。

第2に、学生の授業評価における科目群、科目単位でみた違いである。これに関しても科目の性格、内容・レベルによる違いがあるため一概に評価できないが、年度や学生は違っても評価点やばらつき等、毎回類似した傾向にある。

第3に、教員と学生の意識の差である。一般に学生の評価より教員の自己評価が高いことや、項目や科目群によること等、やはり毎回類似した傾向にある。以上は、果たしてある意味必然的に面もあるのか、あるいは今後、変化（改善）する余地が十分あるのか？

第4に、こうした授業評価結果を具体的にどのように活かしていくか、そして具体的には第5として、教員自身、どのようなFD活動を行っていくかである。

以上を踏まえ、これまでのFD活動レポートの自由記入欄からの意見も参考に、教員の意見からみる課題（授業、並びにFD活動を行う上での課題）をあらためて整理する。

第1に、学生の基礎学力の差への対応である。授業内容・レベル・スピードの設定の難しさ（特に、外国語系や自然科学系の科目において）、時間数の制約のなかで、各教員ともに工夫しながら授業を行っているところであろう。以前から指摘されている問題ではあるが、教員自身としては、何を教えるのか、また何を最低限身に付けて欲しいのかをあらためて認識するとともに、クラス編成について柔軟な対応が可能か、検討する必要がある。

第2に、学生と教員の「コミュニケーション」をいかに行うかである。これも、既に行われていることではあるが、具体的には理解度のチェックや学生の意向の把握ということになろう。ただし要は、学生が受け身の受講態度ではなく、出来るだけ学生自身の主体性を引き出すための工夫が引き続き求められる。

第3に、授業を行う環境や体制の問題である。受講者数、担当する学部間・教員間の「偏り」等も依然として指摘されるところであり、これらについては、教育各位、並びに全学の責任として、対応すべきは早急に行っていくべき課題と考える。

最後に、今回、並びにこれまでの調査結果や、以上の事柄（いずれも教員各位が認識していることであろうが）を、自身のこととしてあらためての受け止め、教員が各々の立場で考えて頂ければ幸いである。

資料1:平成19年度・共通教育FD研修会報告書

1. 倫理・環境部会・環境部門

倫理・環境部会環境部門部会長 中島 暉

倫理・環境部会環境部門FD研修会は、平成20年3月10日10時～12時、教育文化学部第一会議室において開催され、教育文化学部5名、農学部5名、工学部6名、医学部5名の教員が参加した。

会議は、環境部門会議と合併した形で開催され、まず、各種委員(共通教育協議会関係委員、クラス世話人、世話人学部代表)の選出、次年度授業計画が話し合われた後、FD研修会に入った。討議された内容は以下の通りである。

(1) シラバスについて

まず、授業内容について議論があった。

- ・企画自体を学部ごとに考えてはどうか、
- ・学科の環境教育の基礎と位置づけているが、どう変えるかは議論に至っていない。
- ・共通教育部教育委員会での議論について、大学の方針から、非常勤講師の新規採用は難しい。オムニバスの授業は、担当教員、部会員でやりくりすればよい。
- ・授業項目の変更をできる仕組みを検討した方がよい。クラス単位での変更、部会としての変更など、その仕組みを作っておいた方がよい。
- ・クラス世話人に権限があった方がよいのでは。
- ・世話人会議に権限があった方がよいのでは。どこまで授業を変えられるのか、その権限を決めないと話が進まない。部会に責任を持たせて、世話人会議に委任する形にする。
- ・権限は部会にあってよい。しかし、組織的に動かないと認証評価で問われる。世話人会議決定、部会承認など。その内容までは、教務委員会に口出ししない。共通教育協議会、教務委員会に報告すればよい。
- ・部会の規約を作り、世話人会議を明確化する必要がある。
- ・まず、世話人会議を部会で承認して動かしてから、明文化すればよい。
- ・シラバス、授業内容については、世話人会議で議論し、取りまとめて、部会員の下承を取る。規約は、部会長の責任で、次年度に向けて検討する。

(2) 受講状況

- ・評価のあり方を考える必要がある。今のままでよいかどうか。試験が易しすぎないか。
- ・一口メモの評価のあり方について、シラバスでは、出席して名前が書かれていれば、1点となっているが、どうか。名前だけの場合或いはあまりにいい加減な回答の場合、0点の評価もありうるのではないか。

- ・評価の基準を明確にしなければならないが、シラバスに出席点が明示されているのは良くないのではないか。
- ・一口メモについては、出欠とは別に、0～2点の評価を行う。これに関連して、シラバス、学生配布文書、実施要領を書きなおすことが確認された。

(3) 授業評価について

- ・授業評価において、マイクや器材の使い方の問題が出ている。液晶プロジェクターの扱いでのトラブルもあった。何度も授業を行なう場合は、慣れるが、年に一二度だと大変である。
- ・早めに教室に行って時間的余裕をもって準備することが必要である。これを担当教員に周知する必要がある。
- ・クラスサイズで「人数が多すぎる」という意見、クラスサイズと教室の大きさのアンバランスも記述されていた。
- ・教員によって、プレゼンの仕方に差がある。授業評価に書かれた内容を参考にして、それぞれの教員で考えることとなった。

(4) 授業内容について

- ・授業評価に、「いろいろな講義があつて面白かった」と書かれており、おおむね好評であった。

(5) その他の意見

- ・一口メモは、無記名で集めないと学生の本心はわからない。全体として授業がどうであったかを問うアンケートが必要ではないか。教員各人は授業の全体が把握できない。同じことを教えてしまう可能性もある。授業評価でできるだけ多く書いてもらうようにする。
- ・一口メモを返却するという意見もあったが、出席確認に必要なので、返却しない方が良いとの意見がでた。
- ・資料(成績表、答案、一口メモ等)の保存について、以前はPDFで残すことになっていたが、その後どうなっているのか。
- ・以前、一度、残すということで答案を集めたことがあったが、評価担当者が名前が入った資料を見ないということで取りやめになった。
- ・JABEEでは、資料を残す必要がある。
- ・中昨年、問い合わせがあったが、答案、一口メモは、担当教員の手元にあるので、担当教員と話し合つてほしいと伝えた。
- ・本年度は、工学部でクラス世話人に集めてPDF化に取り組んだが、承諾してもらえない先生もあった。
- ・試験答案などの資料は、基本的に各教員が責任持って5年間保存しなければならない。

以上の討議内容を部会長が取りまとめ、部会員に配信することが了承され、研修会を終了した。

2. 現代の社会と倫理

菊井高雄（医学部）

日時：3月11日(火)13時から14時30分

場所：学生会館3F会議室

目的：(講義担当者を含む)教員間で授業改善や部会の課題などに関する意見と情報交換

出席者：医学部・教育文化学部・工学部・農学部教員約15名

世話人：菊井高雄(医学部)

プログラム：

(1) 講義担当教員の授業報告

松尾雄二（教育文化学部）、伊佐敷隆弘（同）、板井孝壺郎(医学部)、菊井高雄(同)が、授業内容、成績評価、授業改善などについて、シラバスや授業評価の結果などをもとに簡単に報告した。なかでもグループワークやディベートなど、学生同士を能動的に活動させることが授業の活性化につながったという意見が印象に残った。

(2) 個別テーマに関する議論

①教えることの意味：「倫理」教育とはいえ、凡人が凡人に教えるのだという意識が大切である。②授業方法：オムニバス方式を活性化するためには、教員自身の教育が必要。教育方法に関して講師を立ててFD活動をしてはどうか。私語、居眠り、携帯については、講義開始前に禁止を宣言すべき。③教育内容：共通教育なので、他学部生にも医学関係の話をしたい。学生の学力水準が一概に下がっているとはいえない。グループワークやディベートなどをさせると、考える力はどの学生にもかなりあるのではないかと思う。逆の意見も。学生の興味関心や熱心度には（たとえ医学科でも）かなり差がある。全体的にはある程度講義の水準を下げざるを得ない。④成績評価：講義期間内に小テストを2回実施（採点返却）し、採点基準を示した上で本テストに臨ませている。1年生には論述式は無理だと思う。出席を中心にグループワークと個人意見シート及び最終レポート(希望者のみ)で評価している。レポート作成ではウィキペディアを無闇に多用する学生が多いので、要注意。⑤その他：FD研修会や講義見学は他人のやっていることを知り、教員間の情報交換の場として、ぜひとも継続するべきである。

(3) 話題提供（板井）

倫理部会の最重要課題は、担当教員の減少への対応である。退職者不補充の場合、必要な教員をどう確保するか、将来構想委員会できっちり話し合ってほしい。その際、(原案のような) 共通教育に関する現行の枠組みを崩す方向でよいのか、学部人事に対しても共通教育部が意見を言う必要があり、大学全体としてどんな形の責任体制を取れるか、よく議論してほしい。この他、松尾委員から個別に意見書を書くので、上層委員会に諮ってほしいという要望があった。

3. 人間と文化

日時：2008年（平成20年）3月5日（木）2時50分から4時45分まで

場所：教育文化学部講義棟 L414 番教室

出席者：竹川昭男，岡村好美，石川千佳子，前田角藏，菅邦男，早野慎吾，檜山平，福原美江，竹井成美，山田利博，尾形明子，伊佐敷隆弘，（以上教育文化学部），甲斐重貴（農学部），

廿日出勇（工学部）（※医学部の教員は教授会と重なったために出席できなかった。）

1. 自己紹介

2. 自分の授業での工夫についての情報交換

各教員が，シラバスを資料として，自分の授業のやり方について説明した。他の教員からは細部について質問が出された。次のような情報が提供された。

- （1）チャイムと同時に授業を開始するようにしてから，学生の遅刻が減った。
- （2）学生ごとの出席表（カルテ）を作り，毎回質問や感想を書かせ，コメントを付けて，次回返却する。同じ表に再び質問や感想を書かせて回収する。これを毎回繰り返す。1枚（或いは1束）の紙に一人の学生の出席と質問が記録されていく。
- （3）学籍番号とは別に整理番号を付けている。出席管理が楽である。
- （4）座席を指定した。私語がなくなった。

3. 自分の授業で苦労していることや困っていることについての情報交換

- （1）学生に関して，「学習意欲の少ない学生がいる」，「学問的な話に興味を持たない学生が多い」，「留学生の中に日本語がかなり不得意な学生がいる」ことなどが指摘された。
- （2）機器に関して，「パワーポイントを使うと『よく見えない』と学生から苦情が来た」，「スクリーンが黒板の真ん前にあるので，上映しながら板書できない」，「教壇がないので黒板の上の方に板書できない」，「教室にスクリーンはあるがスピーカーがない」ことなどが指摘された。

4 「これからの共通教育のあり方」についての意見交換

「学部へのフィードバックが乏しい。共通教育担当教員全員による教授会のようなものがあってもよいのではないか」という意見が出された。

5. その他

シラバスの記入方法について説明があった。

4. 現代社会の課題

開催日時：2008年3月19日 13:00-14:40

場所：教育文化学部第一会議室

出席者：足立文美恵、草場ヒフミ、岩田拓夫、中村周作、菊井高雄、戸島信一、橋迫和幸、瀬戸知也、丸山亜子、小川和憲、中堀博司、根岸裕孝、高橋義人、山田渉（以上、授業担当教員）、甲斐重貴、廿日出勇（共通教育委員）

第1部 授業内容の交流（今年度は答案処理、成績評価他、技術面を中心に交流した）

（1）戸島

- ・ 答案を返却している

（2）菊井

- ・ ほぼ全員合格 ・ 定期試験（客観テスト、図を描かせる、論述をミックスしている）

（3）丸山

- ・ ほぼ全員合格 ・ 学生の授業評価がかなり良い
- ・ 予習・復習を書くべきなのかどうか？ ・ 工学部の学生が教えにくい
- ・ 現行のFDは効果があるのか？FDをどうすべきか？
- ・ マイク等の故障を修理してくれない

（4）橋迫（現代社会と子供・青年）

- ・ 工学部の学生の反応がない（出席カードにコメントを書かない）
- ・ 工学部の学生の受講態度が悪い（遅刻、資料をもってこない）
- ・ 教室が狭く、机間巡視ができない

（5）瀬戸

- ・ 参考文献（100個程度）からレポートを作成させる
- ・ コメントをつけ、個別に答案を返却している

（6）山田

- ・ シラバスの詳細版を授業開始時に学生に示している
- ・ 論述問題に文字数制限をつけた→学生がポイントを絞って答案を書くようになった

（7）足立

- ・ 学生が授業評価でひどいコメントを書いてきたのでショックを受けた

（8）中村

- ・ マークシート方式から記述式の試験に変えた。定期試験不合格がかなり増えた
- ・ 再試験をレポートにして、ほぼ全員を合格にした

（9）岩田

- ・ 再試験に問題を感じる

第2部 フリーディスカッション

1 授業評価アンケート・FDレポートについて

(1) 授業アンケートの質問項目について、

- ・教え方に関する質問が多く、授業の中身に関して問う項目がない

(2) FDレポートについて

- ・授業環境の改善の要望を出しても、反応がない
- ・事務部門と一緒にFDを行えないか？
- ・意見を汲み上げて改善するシステムを作る必要がある

(3) 授業評価アンケートの受け止め方

- ・真面目に評価していないと思われる
- ・ひどいコメントがある
- ・評価が良いのが、良い授業なのか？学生に迎合した授業になるのでは？

(4) 授業アンケートの実施について

- ・毎回行うことが必要か？
- ・学生がお客という意識を植付けることになるのでは

(5) FD害悪論

- ・教員に余計な過重負担になっている。

2 共通教育（現代社会の課題）の役割

(1) 現代社会の課題の目的

- ・社会人としての minimum を教える。minimum は高校教育でやるべきだが、高校の教育がそこまで到達できていない現実がある。
- ・最新の研究内容を教える。
- ・専門以外の研究方法・ものの見方を教える。

(2) 学生のモチベーション

- ・特に工学部の学生のモチベーションが低い
- ・何のために教養を学ぶのかを、学生が理解していない。

(3) 共通教育のシステム

- ・現在の楔形の形態は中途半端でよくない共通教育の目的により、低学年は教養、高学年は専門とするか、並列にする方が良い

3 工学部からのお願い（廿日出）

共通教育部として、成績評価物を収集保存することをやめるようなので、個々の先生に成績評価物の保存と学生への答案の開示をお願いする。

（文責：当日の廿日出委員のメモをもとに、山田渉が調整）

5. 自然と生命

出席者(所属) [氏名] 「科目名」

①(教文)[北直泰]「数学の考え方 AE①」, ②(教文)[藤井良宣]「数学の考え方 AEM④」,
③(教文)[秋山博臣]「物理科学 E」, ④(教文)[村岡嗣文]「物質の科学 E」, ⑤(教文)[ハッ橋寛子]「生物科学 E」, ⑥(教文)[岩本俊孝]「生物科学 T」, ⑦(教文)[野中善政]「宇宙・地球科学 E」, ⑧(医学部)[中島暉]「科学史 AEMN」, 「物質科学入門 MN」, ⑨(医学部)[大桑良彰]「数学の考え方 MN②」, ⑩(医学部)[糸永一憲]「物理学入門 MN」, ⑪(医学部)[西森利数]「生物学入門 MN」, ⑫(医学部)[池田哲也]「生物科学 A」*来年度より, ⑬(工学部)[大塚浩史]「数学の考え方 T②・④」, ⑭(工学部)[河野通夫]「数学の考え方 T⑥」, ⑮(工学部)[白上努]「物理科学 T②」, 「物質の科学 A①」, ⑯(工学部)[岡部匡]「物理科学 T⑤」, ⑰(工学部)[川末紀功仁]「物理科学 T⑤」, ⑱(工学部)[佐藤治]「物理科学 T⑥」, ⑲(工学部)[廿日出勇]「宇宙・地球科学 T」

「自然と生命」(とりまとめ: 池田哲也)

【授業状況報告】

事前に配布した討議資料に基づいて一人5分程度で各科目の授業状況を報告。内容は、教材・配布物、受講状況(学部別の受講数、出席率、単位取得率)、成績評価法・評価基準、シラバス、学生からの授業評価等についてである。／「数学の考え方」、「物理科学」、「物質の科学」の中でも工学部の先生方が担当している工学部の学生対象の授業は、クラスサイズがおおむね70名程度で、専門につながる授業であるためか75%以上出席率も9割を超える科目が多く学生の評価も高い。補講等も積極的に行い、入学時点での学力の不均衡にも対処している。／工学部以外の学部学生対象の同系科目はクラスサイズも100名を超え、75%以上出席率が8割程度の授業が多く、定期試験の合格率も低くなっている。これは、授業時の学生数の多さが細かな対応を難しくしているとともに、専門課程の違う学生が同時に同一授業を受けるので、学生の評価がかなりばらつくためではないかと思われる。／「生物科学」は理系の学生からも文系の学生からも敬遠されやすく、クラスサイズも140名を超える。暗記や一方的な授業ではなく、パワーポイントとその印刷物を活用し、興味を持たせる授業を心がけている。／他の科目に関しては、おおむね75%以上出席率が8割程度であり、定期試験合格率も同程度、やはり、クラスサイズのせいか、難しいと感じる学生と物足りないと感じる学生が混在している。／成績の評価に関しては、多くの授業がレポートや小テストと定期試験で行っており、配点は定期試験が8割程度となる科目が多かった。

【質疑応答】

授業の進め方、内容等についての質疑応答があった。／例をあげると、物理学のある概念（波）を理解させるのに、まず数学からはいる方が有効だったとか、医学部の物理学入門の授業ではまず、自然の不思議さを認識させ、そこから物理の概念に誘導すれば理解しやすい等。／授業の最後に質問意見をメモに記入させ、その解答を次の授業で配布し、学生の興味を喚起する科目もあった。

【個別テーマによる討議】

○成績評価方法・客観的な評価とは

現在、評価の方法は担当の教員に一任しているが、例えば「数学の考え方」の様に同じ科目名の授業は担当教員間で討議して授業内容や成績評価のクロスチェックを行った方がよい。／最低限必要（ミニマム）な指導内容を確認、整理して学生の到達目標を設定する。／到達目標への達成度の数値化。例えば、定期試験における到達目標に関連する項目毎の出題数とその配点をシラバスに明記する。

○クラスサイズについて

クラスサイズが大きい学部の授業は確かに大変であるが、細かく分けると、それだけ教員の負担（人数）も増えていく。／教員数が増やせないのであれば、大きなクラスを運営していく努力、工夫が必要。私学などは様々な工夫をしている。／対象学部生にとって直接専門に関係ない内容の授業は特に難しい。内容をかみ砕く、興味あるテーマを設定する、ビデオやパソコン等のビジュアルに訴える機器を使っていく。学生の興味を持続させる工夫をする。

○学生の授業評価について

現時点では妥当な評価方法と思われる。／学生が自分自身を評価する項目が少なすぎる。

○今後の教養教育のあり方について

共通教育に対する農学部からの情報が少なく、農学部学生への授業内容が専門教育から見ても必要なのか不必要なのか判断できない。／今の教員数で共通教育を維持していくには、現状の体制が一番いい。／学生の学力や取り巻く環境がどんどん変わってきている。学部で必要な教養科目も変化している。それに対応していくためには、教養科目を絞り込んでスリム化し、専門と関連ある科目は専門基礎に含めていく。／専門基礎科目の取り扱いの問題もあるが、あまりに教養科目を減らすと教育内容が形骸化していくおそれがあり、専門しか知らない学生を作ってしまう。また、対外的な教育評価の問題もある。／教養と専門基礎の位置づけを見直しながら改革していく。／教養科目のみを見るのではなく、4年教育の一貫性の中で教養教育を考えていかなければならない。

平成20年度 FD研修会 (H20.11.14)

授業評価結果からみる 共通教育におけるFDの課題

山本 直之

(共通教育部 自己点検・評価委員会)

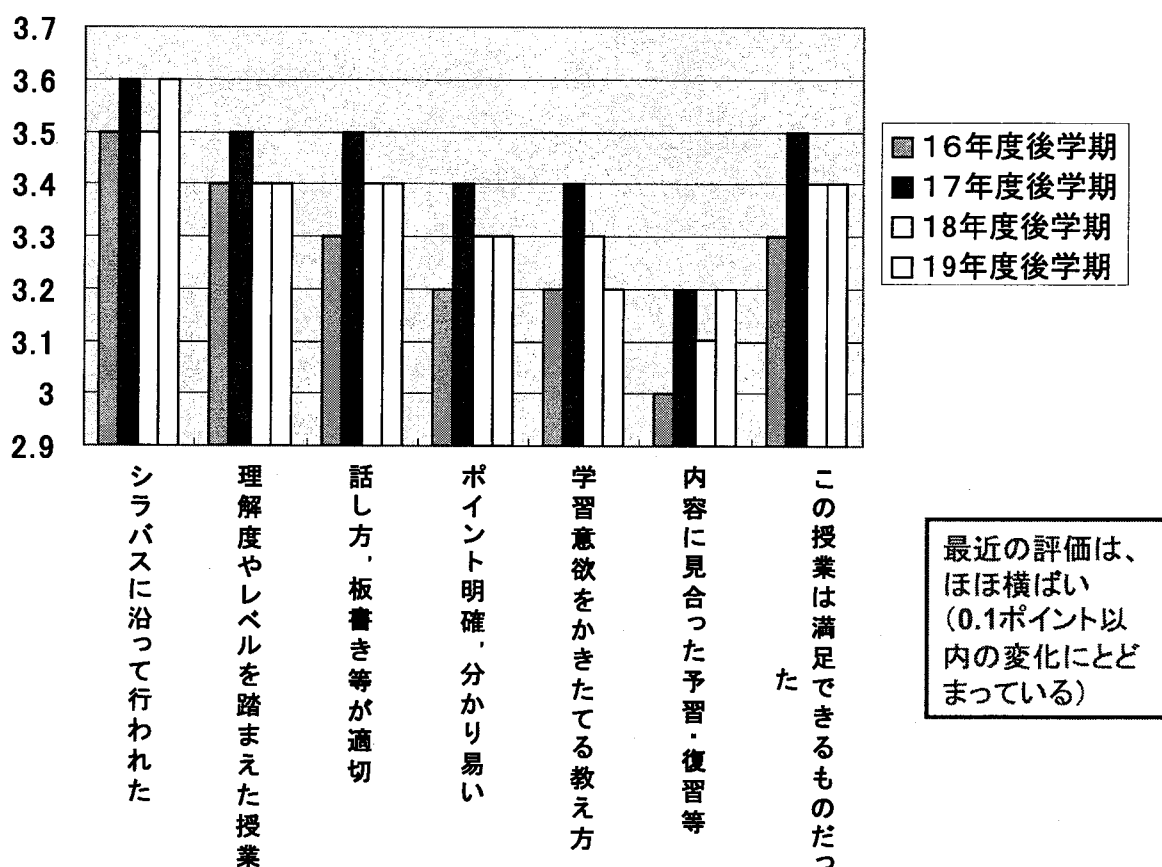
1. 学生による授業評価
 - 1) 全科目平均の動向
 - 2) 科目単位でみた分布 (H19後期)
2. 学生による評価と教員の自己評価の比較 (H19後期)
3. 共通教育におけるFDの課題

1. 学生による授業評価－1)全科目平均の動向

注：4：「あてはまる」、3：「ややあてはまる」、2：「あまりあてはまらない」、1：「あてはまらない」の4段階評価。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	私は75%以上出席した	私は真剣な態度で取り組んだ	私は達成目標に到達した	シラバスに沿って行われた	理解度やレベルを踏まえた授業	話し方、板書等が適切	ポイント明確、分かり易かった	学習意欲をかきたてる教え方	内容に見合った予習・復習等を課した	クラスサイズは適切だった	学習環境は適切だった	この授業は満足できるものだった
16・前期	3.9	3.4		3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9		3.4	3.2
16・後期	3.9	3.4		3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	3.0		3.5	3.3
17・前期	3.9	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.5	3.5	3.3
17・後期	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5
18・前期	3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3
18・後期	3.9	3.4	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.6	3.5	3.4
19・前期	3.9	3.4	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3
19・後期	3.9	3.4	3.1	3.6	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.6	3.6	3.4

最近の2年間は 3.2～3.4の評点



後学期における授業評価の評点の動向(抜粋項目)

2) 科目単位でみた分布(19年度後学期)

学生の「総合満足度」(質問12)との相関係数

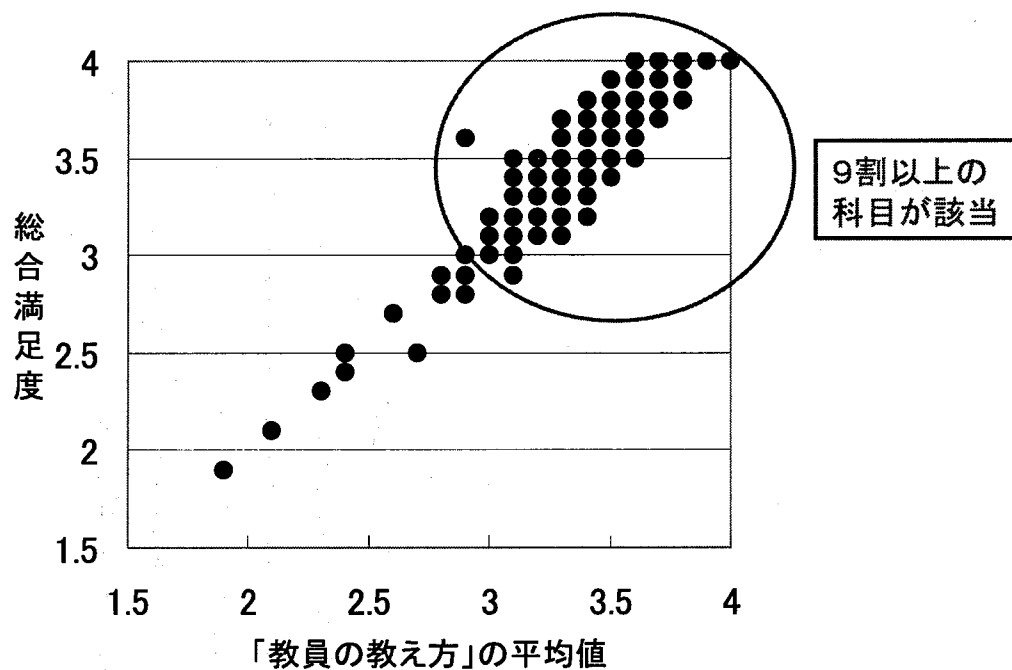
「教員の教え方」、特に、授業内容や教員の話し方、説明の仕方に直結する水色の項目との相関が高い(ほぼ0.9以上)

学生自身			教員の教え方など					
75%以上出席	受講態度	目標への到達度	シラバスに沿った	理解度等踏まえた	話し方、板書が適切	分かりやすい	意欲をかきたてる	適切な予習・復習
0.11	0.67	0.65	0.75	0.91	0.89	0.89	0.95	0.55
学習環境		複数項目の平均						
クラスサイズ適切	学習環境適切	「学生自身」平均	「教員の教え方」平均	「学習環境」平均	全項目平均			
0.49	0.62	0.67	0.93	0.58	0.94			

※「分かりやすさ」や「意欲・好奇心をかき立てる教え方」を行うことが学生の「総合満足度」の向上につながることを、あらためて確認

- ・学生の「受講態度」や「到達度」との相関も0.6～0.7
- ・これらと「教員の教え方」との相関をみると、0.6～0.7(表示は割愛)

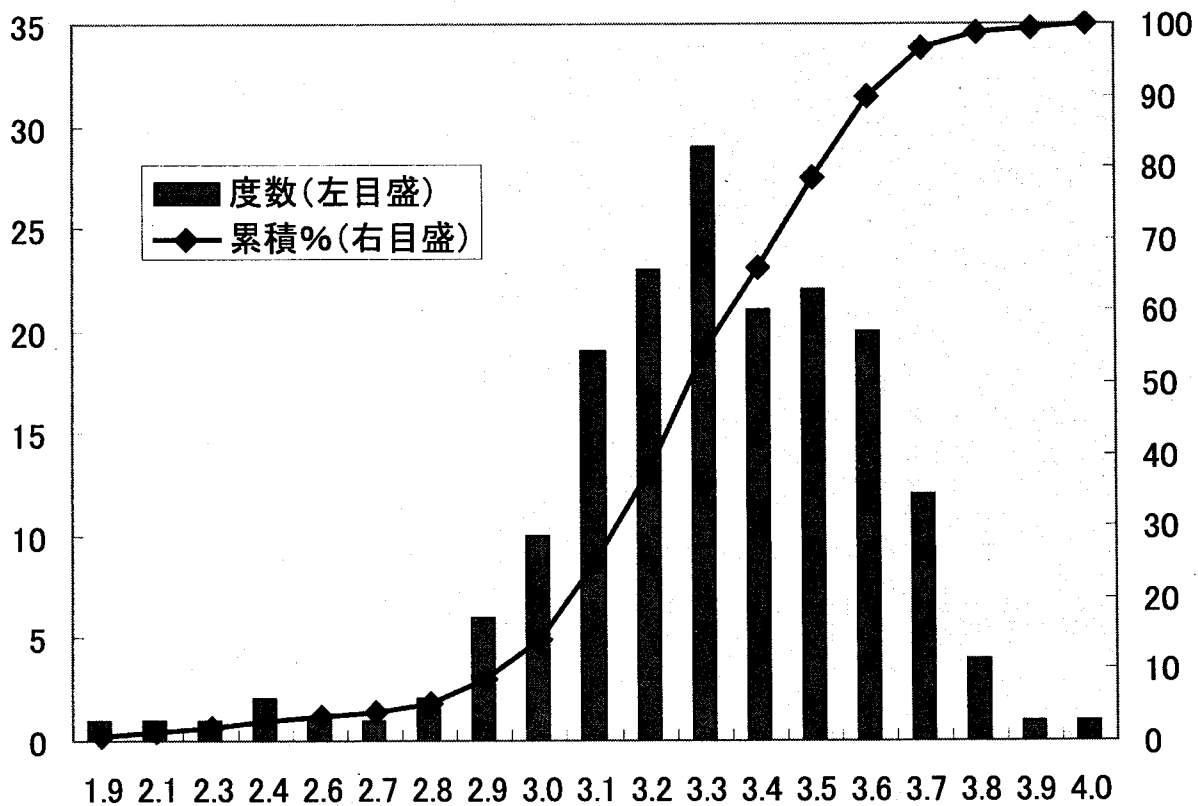
※教員の教え方の良し悪しが、学生の受講態度や到達度(理解度)にも大きく影響していることが示唆



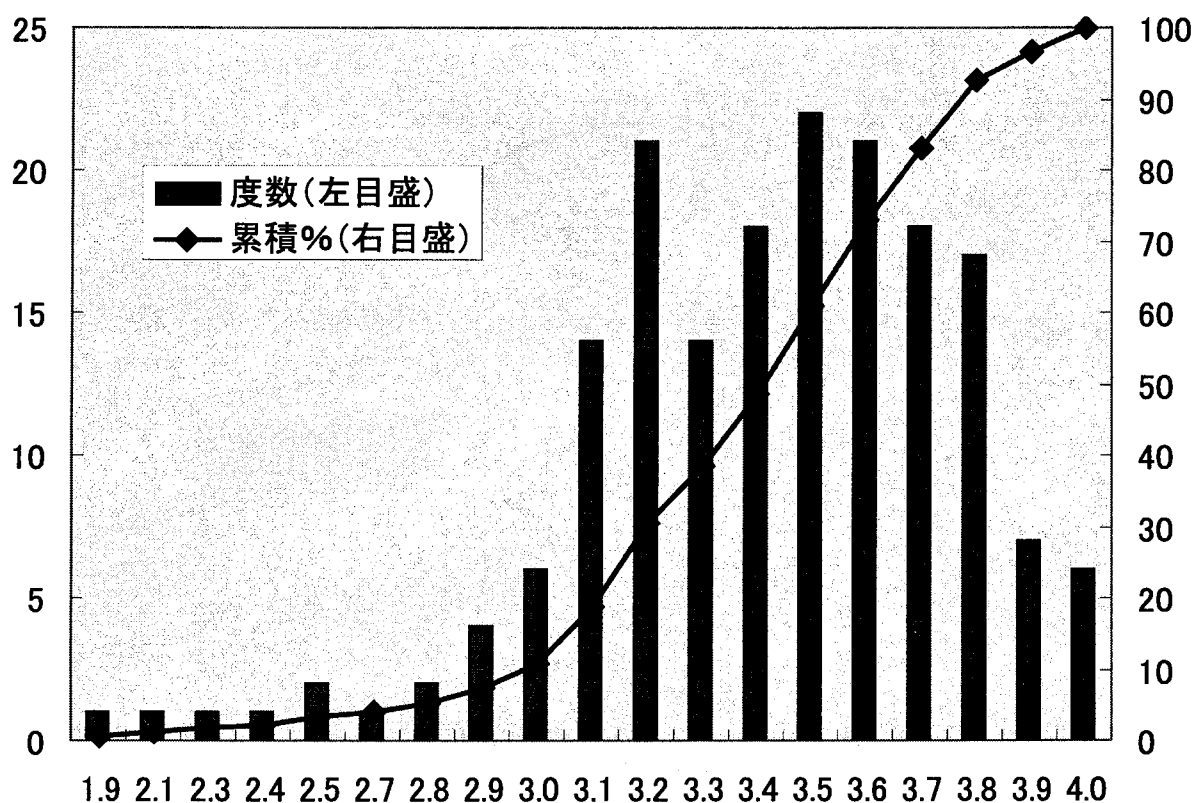
全科目における分布(H19・後期)

「教員の教え方」(横軸)と「総合満足度」(縦軸)

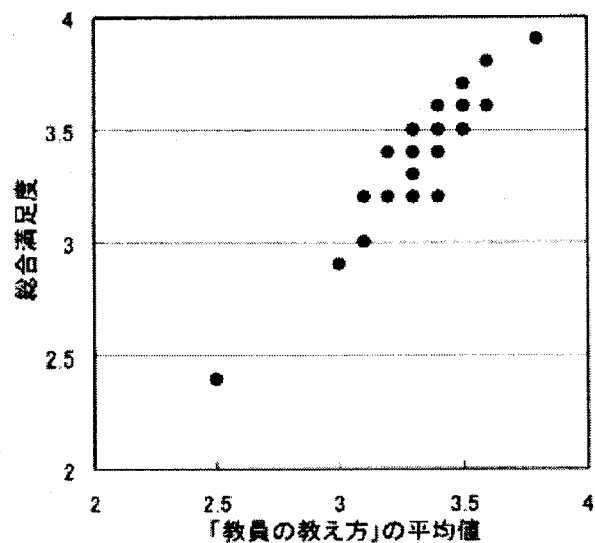
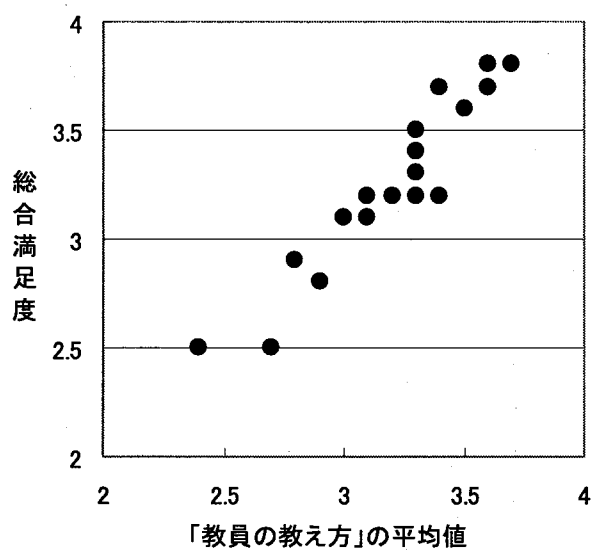
(相関係数は0.93)



「教員の教え方」平均の度数分布と累積%(全科目)



「総合満足度」の度数分布と累積%(全科目)



「英語」(左:H19後期、右:H18後期)

横軸:教員の教え方、縦軸:総合満足度

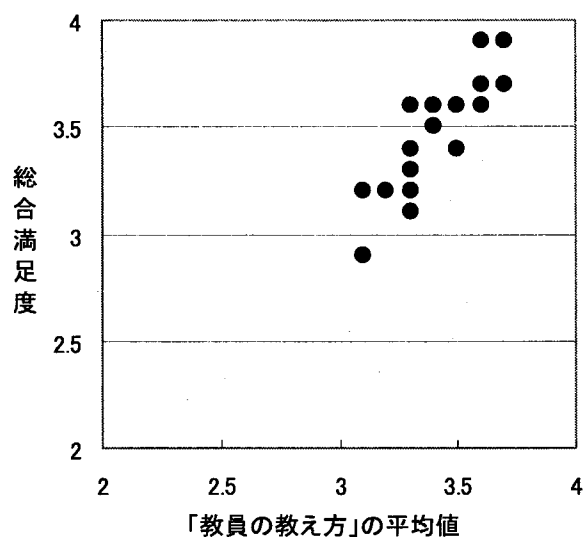


図2-a コミュニケーション英語(H19後期)

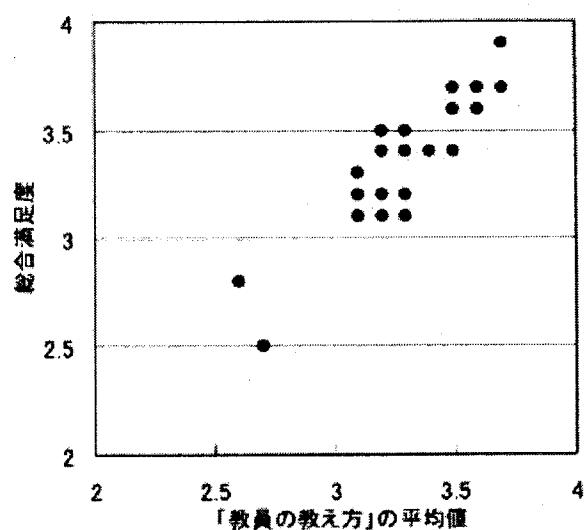


図2-a コミュニケーション英語(H18後期)

「コミュニケーション英語」(左:H19後期、右:H18後期)

横軸:教員の教え方、縦軸:総合満足度

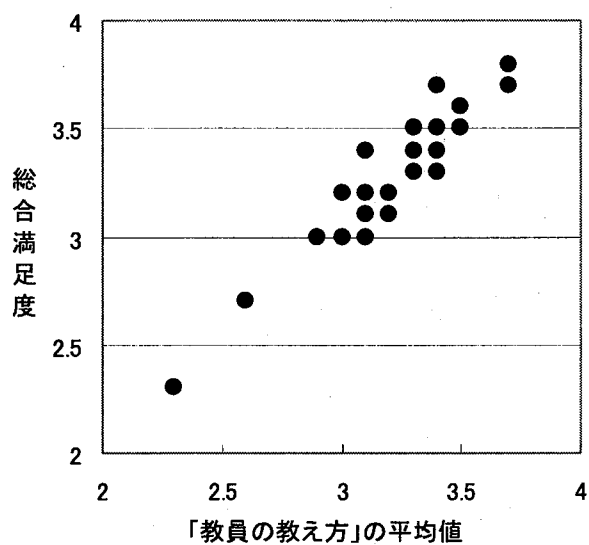


図3-a 初修外国語(H19・通年)

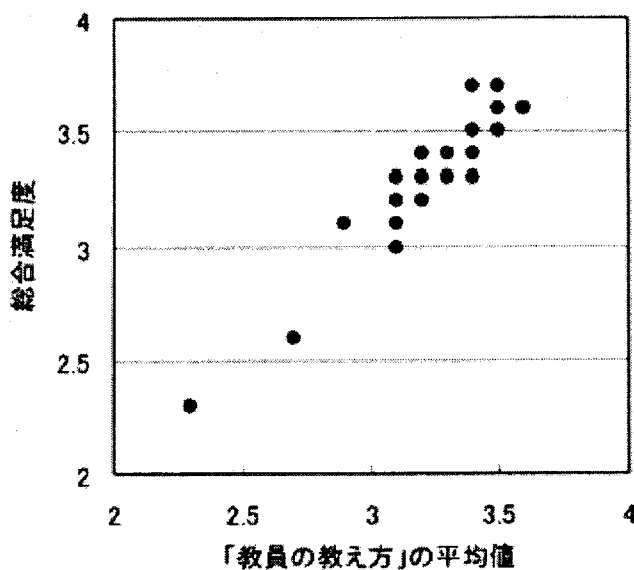


図3-a 初修外国語(H18・通年)

「初修外国語」(左:H19後期、右:H18後期)

横軸:教員の教え方、縦軸:総合満足度

科目単位でみた分布の特徴、および授業評価のまとめ

①約9割の科目が、「総合満足度」等で3.0をクリア

→この視点からみれば、「ばらつき」が縮小

→ただし、約1割の科目で3.0未満

②4年間を通してみれば、学生の評価は確かに上昇。

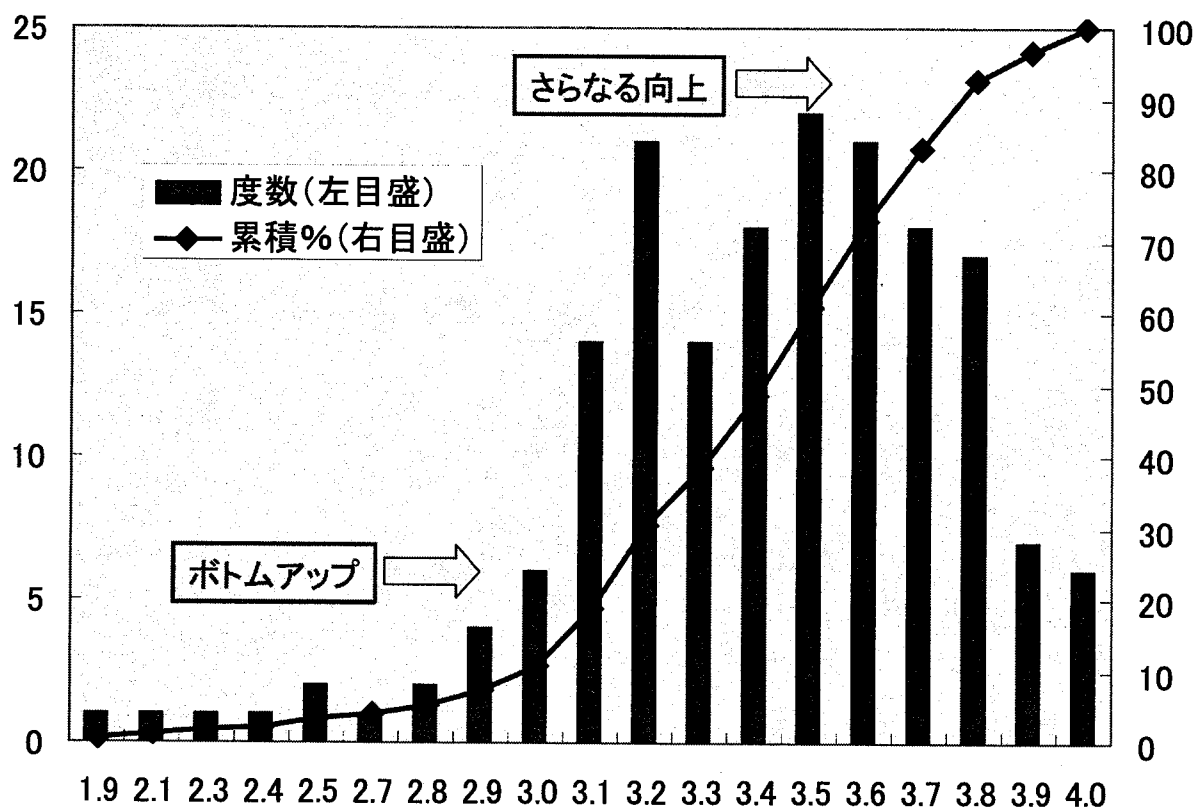
→「教員の教え方」のうち、授業の内容や教員の話し方、説明の仕方や、「総合満足度」は、全科目平均でみれば今回も3.2～3.4の評点を達成。

→「これで妥当」とみるべきか否か？

③最近の評価は、ほぼ横ばい。また、ほとんどの科目群において前年同学期と似通った特徴や分布の傾向を示している。



※当然ながら、「学生の評価」イコール「授業の評価」では決してないが、これらの結果をどのように受け止め活かしていくか？



「総合満足度」の度数分布と累積% (全科目)

2. 学生による評価と教員の自己評価の比較

(全科目平均、ならびに大学教育基礎科目)

	回答数	平均受講 登録者数	当初の目 標は達成	シラバス に沿った	理解度等 を踏まえ て設定	話し方や 板書が適 切	分かりや すく説明	満足させ る教え方	授業に見 合った予 習・復習	学生を満 足させる 授業
英語	23	42	3.6 (3.0)	3.8 (3.5)	3.7 (3.3)	3.7 (3.3)	3.8 (3.2)	3.6 (3.2)	3.6 (3.3)	3.6 (3.3)
コミュニケーション英語	19	40	3.5 (3.1)	3.9 (3.6)	3.7 (3.6)	3.7 (3.5)	3.7 (3.4)	3.4 (3.4)	3.8 (3.4)	3.6 (3.5)
初修外国語	29	62	3.3 (3.0)	3.8 (3.5)	3.8 (3.3)	3.7 (3.2)	3.7 (3.2)	3.5 (3.1)	3.4 (3.3)	3.7 (3.3)
保健体育科目	16	39	3.1 (3.6)	3.7 (3.7)	3.4 (3.7)	3.6 (3.6)	3.3 (3.5)	3.4 (3.5)	1.9 (3.1)	3.4 (3.6)
全科目平均	138	61	3.5 (3.1)	3.7 (3.6)	3.6 (3.4)	3.4 (3.4)	3.6 (3.3)	3.5 (3.3)	2.8 (3.2)	3.4 (3.4)

注: 1) 上段は教員による自己評価、下段(かっこ)は学生による授業評価による平均値。

2) 全科目平均の黄色のセルは、学生による評価(下段)が、教員の評価(上段)より、0.2ポイント以上低い項目。

3) 水色のセルは、学生による評価(下段)が、教員の評価(上段)より高い項目。

4) 初修外国語は通年での評価。

①一般に、学生の評価が、教員の自己評価より低い。

②「予習・復習」だけは、その逆…ただし、語学系の3群は、そのまた逆の傾向

3. 共通教育におけるFDの課題（議論のための材料）

1. 学生の授業評価における最近の動向や「教員の教え方」等について、どのように評価するか

2. 学生の授業評価における科目群、科目単位でみた違いについて

3. 教員と学生の意識の差について

4. 授業評価結果を具体的にどのように活かしていくか

5. 教員のFD活動の状況と意向、要請されるFD活動

【教員の意見からみる課題】

(H19前期のFD活動レポートの自由記入欄からの整理)

1. 学生の基礎学力の差
 - ・ 授業内容・レベル・スピードの設定の難しさ
(特に、外国語系、自然科学系の科目)
 - 時間数の制約
 - 共通教育が目指すもの、専門教育との違いは？
 - 「わかりやすさ」⇔内容・レベル、「厳しさ」とのかねあい
2. 学生と教員の「コミュニケーション」
 - ・ 理解度チェック、受講意欲の継続的把握の難しさ
 - 学生の主体性をいかに引き出すか？ 学生参加型？
3. 授業を行う「環境」や「体制」の問題
 - ・ 受講者数、担当する学部間・教員間の「偏り」等

教員のFD活動の状況と意向(複数回答)

	1年間で取り組んだFD活動		今後取り組もうと考 えているFD活動	
	度数	%	度数	%
他教員の授業参観	19	26.8	24	33.8
学内外のFD講演会等への参加	31	43.7	33	46.5
他大学のFD活動の視察	6	8.5	5	7.0
その他	16	22.5	12	16.9
無回答	17	23.9	17	23.9
全体(FD活動レポート回収数)	71	100.0	71	100.0

データ: 19年度後学期のFD活動レポート。

注: 1名の教員が複数科目担当(回答)の場合は、まとめて1回答分として集計。

「その他」のFD活動

- ・ FD関連資料、文献等を読む(指導書、授業改善資料を含む)
- ・ 自分自身の授業の公開
- ・ 教科書の作成・編集、関連資料の査読
- ・ 他教員との情報交換(テキスト、授業内容等)
- ・ 小中高教員の授業参加、研修会参加
- ・ 教授法の発展のための独自FD



※(前頁の結果とあわせると)

教員は、普段の、かつ「身近」な場所でのFDを行う
(と考えている)傾向がみられる

共通教育部自己点検・評価委員会委員

(平成 19 年度)

足 立 勝(農学部)

井 上 修 一(教育文化学部)★

◎甲 斐 重 貴(農学部)

川 村 修(農学部)

武 方 壮 一(教育研究・地域連携センター)

玉 江 和 義(教育文化学部)

中 島 暉(医学部)

西 森 利 数(医学部;共通教育部長)

西 脇 亜 也(農学部)

廿日出 勇(工学部)

○南 太一郎(教育文化学部)★

山 本 直 之(農学部)★

湯 井 敏 文(工学部)★

(◎は委員長 ○は副委員長)

(★は 19 年度前学期報告書作成 WG)

(平成 20 年度)

秋 山 博 臣(教育文化学部)

菊 井 高 雄(医学部)★

槐 島 芳 徳(農学部)

ゲスト・マイケル(医学部)

高 橋 るみ子(教育文化学部)

武 方 壮 一(教育研究・地域連携センター)★

西 森 利 数(医学部;共通教育部長)

西 脇 亜 也(農学部)

○南 太一郎(教育文化学部)

山 田 利 博(教育文化学部)★

◎山 本 直 之(農学部)★

山 森 一人(工学部)

(◎は委員長 ○は副委員長)

(★は 19 年度後学期報告書作成 WG)

*尚、两年度共、授業評価に係る作業データの処理等には、武方委員に多大な尽力を賜った。特記して謝意を表する。